

防災教育 ガイドブック

めざせ!!ボウサイマン!!



地震のことなら
私にお任せ♪
ボウサイマンイエロー



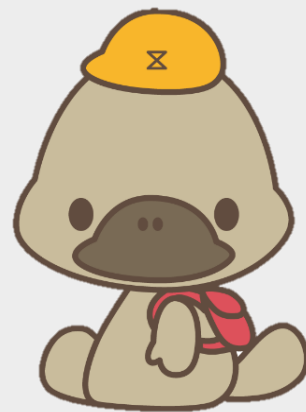
豊橋の街は俺が守る!
ボウサイマンレッド



津波や洪水は
任せてくれ!!
ボウサイマンブルー



YouTuber
ヒョウダマン



防災リーダー-応援隊長
ハッシーくん

君はだれをめざすかな?

目次

この防災教育ガイドブックは、文部科学省の配布する教職員用参考資料・防災教育教材の補完として小中学校で先生方が防災教育を実施する際の教材として使用してもらうため、豊橋市防災危機管理課が作成したものです。このガイドブック内のメニューを実施するにあたり必要なデータは、防災危機管理課の共通キャビネット内に入っています。ぜひご活用ください。

No	分類	メニュー	形式	レベル	人数	時間	教科
—	—	<u>このメニューの使い方</u>	—	—	—	—	—
—	—	<u>使用するデータについて</u>	—	—	—	—	—
1	地震	いえまですぐろく	演習	2	3～6人	45分	総合
2	地震	なまずの学校	演習	3	3～6人	45分	総合
3	災害全般	ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん！	演習	1	～6人	45分	総合
4	風水害	水害紙芝居 おおあめとぼくのゆめ	講義	1	—	45分	社会
5	災害全般	防災カードゲーム「シャッフル」	演習	2	3～8人	45分	総合
6	災害全般	防災いろはかるた	演習	1	～8人	45分	総合
7	地震	自分の家の危険を考えてみよう！	演習	1	—	45分	総合
8	地震	通学路の危険を考えてみよう！	演習	2	～6人	45分	総合
9	地震	学校を探検してみよう！	演習	1	5～6人	45分/90分	総合
10	地震	防災コミュニティマップを使って街歩き をしてみよう！	演習	2	—	45分/90分	社会
11	地震	避難所生活を体験してみよう！	実技	2	—	45分/90分	総合
12	地震	オリジナル間仕切りを作ってみよう！	演習	1	—	45分	総合
13	災害全般	対決！毛布担架リレー	実技	1	6～8人	45分	体育
14	災害全般	身近なもので友達を助けよう	実技	2	—	45分	保健

No	分類	メニュー	形式	レベル	人数	時間	教科
15	災害全般	空き缶でランタンを作ろう！	実技	2	—	45分	図工
16	災害全般	水をろ過して生活用水づくり	実技	1	5～6人	45分	理科
17	災害全般	オリジナル防災グッズを作ってみよう！	実技	2	—	45分	図工
18	災害全般	非常食を食べてみよう！	実技	1	—	45分/90分	家庭科
19	災害全般	やってみよう！パッククッキング	実技	1	—	90分	家庭科
20	地震	揺れにのこった！のこった！ ～家の耐震化を学ぶ～	演習	2	6～8人	45分	総合
21	災害全般	災害時のトイレ体験	実技	1	6～8人	45分	社会
22	地震	比べてみよう！普通の暮らし災害の暮らし	演習	1	6～8人	45分	総合
23	地震	自分を守る方法を学ぼう！～地震編～	講義	2	6～8人	45分	社会
24	地震	自分を守る方法を学ぼう！～津波編～	講義	2	6～8人	45分	社会
25	風水害	自分を守る方法を学ぼう！～風水害編～	講義	2	6～8人	45分	社会
26	土砂災害	自分を守る方法を学ぼう！～土砂災害編～	講義	2	6～8人	45分	社会

このメニューの使い方



分類	レベル	形式	人数	場所	時間
この部分に防災教育の分類、対象、実施方法等を記載しています。詳細は、下記のとおりです。					

分類	学ぶことができる災害の分類を示しています。 地震・風水害・土砂災害・災害全般
形式	授業の実施形式を示しています。 講義・演習・実技
レベル	メニューを実施するのに適した対象年齢を示しています。 レベル1：小学校低学年以上 レベル2：小学校高学年以上 レベル3：中学生以上
人数	メニューを実施するのに適した1グループ当たりの人数を示しています。
場所	メニューを実施するのに適した場所を示しています。
時間	所要時間を示しています。単位は分です。
学習の目標	メニューの学習目標を記載しています。
用意するもの	授業実施にあたり必要となる教材・資機材を、防災危機管理課から受け取るもの、学校で用意するもの分けて記載しています。必要なデータは下記フォルダに入っています。 防災危機管理課-共通キャビネット-08-02_学校版出前講座
事前の準備・実施上の注意点	事前に準備しておく項目を記載しています。
指導のポイント	目標を達成するための指導のポイントを記載しています。
ひと工夫	より効果的にするための工夫を記載しています。
実施手順・内容	実施手順とその内容を記載しています。①から順番に実施します。

学習に使用するデータ等について

はじめに

学習に必要なデータは、下記のフォルダに入っています。必要なデータを出してご利用ください。

防災危機管理課ー共通ー08-03_学校版出前講座

キャビネットに入っているデータ

【各メニューごとに使用するデータ】

各メニューを実施するのに必要なデータがそれぞれのメニュー名のフォルダに入っています。

<入っているデータ例>

- ・ 振り返りシート
- ・ パワーポイントのスライド
- ・ 配布用の説明書
- ・ 指導者用解説書
- ・ メニュー実施時に使用する地図などの資料
- ・ 映像
- ・ 映像のリンクURL一覧
- ・ 映像解説書

【共通して使用するデータ】

必要に応じて使用できる被災地の写真や映像が入っています。

<入っているデータ例>

- ・ 過去の震災の写真
- ・ 過去の震災の映像
- ・ 過去の震災の写真や映像の解説書

データ使用時の注意事項

- ①映像はダウンロードできないものもあり、インターネットで閲覧しなければならぬものもあります。必要に応じてパソコン等をインターネットに接続しご利用ください。
- ②パワーポイントのスライドが動作しない等の不具合がありましたら、防災危機管理課（51-3182）までご連絡ください。

ぼうさいボードゲーム いえまですごろく

分類	レベル	形式	人数	場所	時間
地震	2	演習	3～6人	教室	45分

学習の目標

地震が起こった際の行動をすごろくを通して体験し、事前にどのような対策を行っておけばいいのかを学ぶことで、いざという時に「自分の命を自分で守り、他者も助ける」行動ができるようにする。

用意するもの

★防災危機管理課から受け取るもの★

- ① 「いえまですごろく」セット……………必要数（最大8セット）
- ・ボード1枚
 - ・救助カード35枚
 - ・救助場面カード9枚
 - ・通行カード4枚
 - ・けがカード24枚（足12枚・うで12枚）
 - ・ルール説明書
 - ・指導者用いえまですごろく
 - ・マニュアル1枚
 - ・スタートアップ1枚



★キャビネット内データ★

- ② 被災地の写真…必要数

★学校で用意するもの★

- ③ ふりかえりワークシート……………児童・生徒の人数分
④ 豊橋市防災ガイドブック（教員用）…1部

事前の準備・実施上の注意点

- 防災危機管理課から「いえまですごろく」セットを必要数受け取る。
- 教員は、「豊橋市防災ガイドブック」に掲載されている、「地震災害から身を守る」（p3-13）を読み、自分たちの学校のある校区の被害想定を確認しておく。
- 「いえまですごろく」セット内に入っている「ふりかえりワークシート」を、児童・生徒の人数分用意する。
- 「いえまですごろく」セット内に入っている「いえまですごろくスタートアップ」「ふりかえりシート」「（指導者用）いえまですごろくマニュアル」は使わないため、出しておく。
- キャビネットにある被災地の写真を必要数印刷しておく。
- 1グループ3～6人になるようにグループわけを行う。

指導のポイント

遊びで終わらないよう、随所で自分が街に出て1人で同じ状況になったらどのようなことができるかを意識させる。

ひと工夫

実際に被災した町の写真などを見せると発災時の町の状況を理解しやすくて◎！

実施手順・内容

1 【導入】 学校区の被害想定等を伝え、ゲームの準備をする（5分）

ゲームの導入として、学校のある校区の被害想定を伝え、学校や家の周りでどのような状況が起こりうるか想像してもらおう。また、児童・生徒の目指すべき姿「自分の命を自分で守り、他者も助ける」を伝え、ゲームをしながら発災時に自分がどんな助けができるか考えてもらう。

「いえまですごろく」の箱を開け、中に入っている「ルール説明書」に従い、ゲームの準備をする。

自分たちの校区に津波・液状化・火災などどのような被害が起こりうるのか説明することで、被災状況をイメージしやすくする。その時に過去の災害の写真を見せるとイメージが付きやすくて良い。小学生や中学生は若く元気で、地域の大人たちを助ける大切な存在であることを伝え、自分ができることを探しながらゲームを進めるよう誘導する。

2 【準備】 ルールの説明（5分） 「いえまですごろくスタートアップ」

「いえまですごろくスタートアップ」の⑥～のルール説明を読み、ルールの説明をする。

救助場面カード裏側に「※みんなで話しあってみよう」と書かれている場合があるので、その場合は必ずみんなでどのような対応が最善かを話し合う。

3 【本編】 ゲーム（25分）

ルールに従いゲームをプレイする。

先にゴールした人が勝ちではなく、災害時と同じようにみんなで助け合って問題を解決できるようにゲームを進める。

4 【発展】 グループ内で振り返り（5分）

ゲームを通して学んだこと、今後気をつけたいこと、家族と話したいことなどを話し合う。また、振り返りシートを記入する。

「ゲームではカードを出すだけで人を助けることができたけど実際は？」「家族とはどこで集まるか決めている？」など児童・生徒が自分と家族の状況に落とし込めるようにする。

5 【結論】 今日のまとめ（5分）

すごろくゲームの被災疑似体験を通して学んだ「自分ができること」を色々な場面で考えて災害に備えることを再確認する。

実際に地震が起こった時は①まずは自分を守る②次に周りを助ける行動をとること、小学生や中学生は動ける戦力として活躍できる存在であることを意識して、自分が何をできるのか考えておくことが大切だということを伝える。

また、今回のゲームのゴールは家だったが、実際に地震が起こった時には家以外に集まる場合もあるため、児童・生徒に家族とどこで集まるか決めておくといいことも伝える。

ぼうさいカードゲーム なまずの学校

分類	レベル	形式	人数	場所	時間
地震	3	演習	3～6人	教室	45分／90分

学習の目標

地震が起こった際の行動をゲームを通して体験し、どのような対応を取ればいいのかを学ぶことで、いざという時に「自分の命を自分で守り、他者も助ける」行動ができるようにする。

用意するもの

★防災危機管理課から受け取るもの★

- ① 「なまずの学校」セット……………必要数（最大18セット）
- ・ ルールシート1枚 ・ ナマーズ紙幣
 - ・ 紙芝居クイズ65枚 10ナマーズ150枚
 - ・ なまずカード96枚 50ナマーズ50枚
 - ・ カード置き場6枚



★キャビネット内データ★

- ② 被災地の写真……………必要数
③ ふりかえりワークシート…児童・生徒の人数分



★学校で用意するもの★

- ④ 豊橋市防災ガイドブック（教員用） …… 1部

事前の準備・実施上の注意点

- 防災危機管理課から「なまずの学校」セットを必要数、「防災ガイドブック」を1部受け取る。
- 教員は、「豊橋市防災ガイドブック」に掲載されている、「地震災害から身を守る」（p3-13）を読み、該当する校区の被害想定を確認しておく。
- なまずの学校ふりかえりワークシートを、児童・生徒の人数分用意する。
- キャビネットにある被災地の写真を必要数印刷しておく。
- 1グループ3～6人になるようにグループわけを行う。

指導のポイント

災害時も、色々な場面で小学生・中学生ができることがあることを意識させ、自分の目の前で同じ状況が起こった場合、自分が何をするか、事前にどんな対策をするかを考えさせる。

ひと工夫

実際に被災した町の写真などを見せると発災時の町の状況を理解しやすくて◎！

実施手順・内容

1 【導入】 学校区の被害想定等を伝え、ゲームの準備をする（5分）

ゲームの導入として、学校のある校区の被害想定を伝え、学校や家の周りでどのような状況が起こりうるか想像してもらおう。また、児童・生徒の目指すべき姿「自分の命を自分で守り、他者も助ける」を伝え、ゲームをしながら発災時に自分がどのような行動が取れるかを考えてもらおう。

「なまずの学校」の箱を開け、中に入っている「ルールシート」に従い、ゲームの準備をする。
※紙芝居クイズは、教員が読むため、使用しないことを伝える。

校区に津波・液状化・火災などどのような被害が起こりうるのか説明することで、被災状況をイメージしやすくする。その時に過去の災害の写真を見せるとイメージが付きやすい。小学生や中学生は若く元気で地域の大人たちを助ける大切な存在であることを伝え、できることを探しながらゲームを進めるよう誘導する。

2 【準備】 ルールの説明（5分）

「ルールシート」のゲームの流れを読み、ルールの説明をする。

「協力問題」については、グループで協力してトラブルを解決する問題であり、全員で話しあって対応するよう伝える。

3 【本編】 ゲーム（25分）

ルールに従いゲームをプレイする。

実際の災害対応は周りのみんなとトラブル解決をすることになるため、自分が同じ状況になった時に何ができるのかを考えながらプレーするよう伝える。

4 【発展】 グループ内で振り返り（5分）

ゲームを通して学んだこと、実際に自分でできること、を話し合う。また、振り返りシートを記入する。

「ゲームではカードを出すだけで人を助けることができたけど実際は？」「みんなで協力するとなったとき自分は何をする？」など児童・生徒が自分の状況に落とし込めるようにする。

5 【結論】 今日のまとめ（5分）

なまずの学校の被災疑似体験を通して学んだ「自分ができること」を色々な場面で考えて災害に備えることを再確認する。

実際に地震が起こった時は①まずは自分を守る②次に周りを助ける行動をとること、小学生や中学生は動ける戦力として活躍できる存在であることを意識して自分が何をできるのかしっかり考えておくことが大切だということを伝える。

また、今回のゲームはカードを出して解決したが、実際は自分で備えておかないと何もできないことも伝える。

ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん!

分類	レベル	形式	人数	場所	時間
災害全般	1	演習	～6人	教室	45分

学習の目標

間違い探しを通して、災害時に自分の身を守る行動ができるようにする。

用意するもの

★防災危機管理課から受け取るもの★

- ① 「きけんはっけん！」セット……………必要数（最大4セット）
- ・ 解説書 1冊
 - ・ 問題シート（地震）問題4枚、答え1枚
 - ・ 問題シート（避難・津波）問題4枚、答え1枚
 - ・ 問題シート（風水害・大雪）問題4枚、答え1枚



★キャビネット内データ★

- ② 被災地の写真…必要数

★学校で用意するもの★

- ③ 豊橋市防災ガイドブック（教員用）……………1部



事前の準備・実施上の注意点

- 防災危機管理課から「きけんはっけん！」セットを必要数受け取る。
- 教員は、「豊橋市防災ガイドブック」に掲載されている、「地震災害から身を守る」（p3-13）を読み、該当する校区の被害想定を確認しておく。
- グループ分けをして行う場合、1グループ6人以下となるようグループ分けを行う。
- 問題シート（裏・表）全6種類のうち、どの問題を実施するか決める。
45分の授業の場合、1～2問程度決めておく。
- 決めた問題のシートを箱から出して配布できるようにしておく。（1箱4枚ずつ入っている。）
教員用の答えシートを1部箱から出しておく。

指導のポイント

遊びで終わらないよう、自分がどのような命を守る行動を取るのかそれぞれの場面で考えさせる。

ひと工夫

例えば机など隠れる場所がないところで自分を守る「ダンゴムシポーズ」などを併せて練習するとより効果的な学習となる。

実施手順・内容

1 【導入】 学校区の被害想定等を伝え、ゲームの準備をする（5分）

ゲームの導入として、学校のある校区の被害想定を伝え、学校や家の周りでどのような被害が起こりうるか想像してもらおう。また、児童の目指すべき姿「自分の命は自分で守る」を伝え、間違い探しをしながら発災時に自分がどのような行動を取ればよいかを考えてもらう。

実施する問題シートをグループごと1枚ずつ配布する。

災害時に間違った行動を取ると命を落とす危険があることを伝え、間違い探しの間違った行動を自分ならどのような行動に変えるか考えさせる。

2 【準備】 ルールの説明（5分）

「解説書」の中で該当するシートの「実施の流れ」に従い説明をする。

「自分事」と捉えることができるよう、絵の町と自分の町の間接点など事前に考えて発表してもらおう。

3 【本編】 ゲーム（25分）

「解説書」の「解説ポイント」に記載されたポイントを踏まえながら間違い探しを実施する。間違い探しで発見した危険な行動については、どのような行動に変えればよいかを考えさせる。

間違い探しで危険なポイントや行動をどのように変えればよいかを考えさせ、クラス全体で共有する。

4 【発展】 グループ内で振り返り（5分）

ゲームを通して学んだこと、災害時実際に自分が取る行動、を話し合う。

自分の命を守るために、どんな行動を取るべきかシーンごとに考え、クラス全体で共有する。

5 【結論】 今日のまとめ（5分）

災害や災害が起こる場所によってどのような行動を取ればよいか変わってくるため、事前に自分の命を守るための行動を考えておくことが大切だということを再確認する。

「解説書」の「先生方へ」に記載してあることを児童に伝える。特に家族と話しあっておくべき事項は宿題として子どもに考えさせる。

水害紙芝居

おおあめとぼくのゆめ

分類	レベル	形式	人数	場所	時間
風水害	1	演習	—	教室	45分

学習の目標

風水害の正しい避難方法を学び、「自分の命は自分で守る」ことができるようにする。

用意するもの

★防災危機管理課から受け取るもの★

- ① 水害「おおあめとぼくのゆめ」……………必要数（最大2セット）
 - ・解説書
 - ・紙芝居



★キャビネット内データ★

- ② 振り返りシート……………児童・生徒の人数分
- ③ 紙芝居のパワーポイントデータ

★学校で用意するもの★

- ④ バインダー（机がない場合に使用）……………児童・生徒の人数分
- ⑤ 豊橋市防災ガイドブック（教員用）……………1部

事前の準備・実施上の注意点

- 防災危機管理課から「おおあめとぼくのゆめ」を必要数受け取る。
パワーポイントのデータを使用する場合、ダウンロードしておく。
- 教員は、「豊橋市防災ガイドブック」に掲載されている、「風水害から身を守る」（p15-18）を読み、該当する校区の浸水想定等を確認しておく。
- 紙芝居の間違い探しを話し合えるよう、4～6人のグループ分けをしておく。
- 振り返りシートを人数分印刷する。
- 机を移動させ椅子や床に座る場合、児童・生徒がメモを取れるようバインダーを用意させる。

指導のポイント

自分の場合はどうするかをしっかりと考えさせられるよう、身近な状況に置き換えながら説明する。

ひと工夫

時間が足りない場合、宿題で自分だったらどのような行動を取るのか考えさせると理解がより深まる。

1 【導入・準備】 学校区の被害想定等を伝え、ゲームの準備をする（5分）

（机をどかし、）紙芝居が見やすい位置に移動する。グループごと近くに座る。

ゲームの導入として、学校のある校区の浸水想定等を伝え、自分の周りでどのようなことが起こるのか想像してもらう。また、児童の目指すべき姿「自分の命を自分で守る」を伝え、主人公の行動の間違い探しをしながら発災時に自分がどのような行動を取ればいいかを考えてもらう。

読み聞かせの中で見つけた間違いは、振り返りシートにメモし、後でグループごと話し合うことを伝えておく。

自分の家や学校の周り、友達と遊びに出かけたときの状況をまず想像させ、紙芝居と同じような状況が自分に起こりうるということをよく伝える。

2 【本編】 紙芝居の読み聞かせ①（10分）

最初に気づいた間違いを振り返りシートにメモするように説明し、読み聞かせを始める。

※時間がない場合は、最初の水害メカニズムを省く（P3~8）

「ぼく」の命が危なくなる行動をメモするように伝える。

3 【本編】 グループで間違った行動等を話し合う（10分）

振り返りシートのメモをもとに、①どの行動が間違っていたかとその理由②どのような行動を取ればよかったのかそれぞれ話し合う。

見つけた間違いだけでなく、その時どういう行動を取ればよかったのか、自分だったらどのような行動を取るかについても話し合わせる。

4 【本編】 紙芝居を読み聞かせながら間違いを発表させる（15分）

最初の水害メカニズム等（~P8）を除き、P9~再度ゆっくりと読み聞かせをする。その途中で間違っていると思う行動があればその都度手をあげてもらい、間違っている行動とその理由を発表させる。また、併せてどのような行動を取ればよかったのかを児童に発表させる。

間違っている行動とその理由を発表させた後、どのような行動を取ればよかったのかについては全体に投げかけて考えさせるとより理解が深まる。

5 【結論】 今日のまとめ（5分）

間違いを通じて分かった避難のポイントを再度全体でおさらいしてまとめる。

①雨が降ってるときは川に近づかない②避難勧告等が出たら速やかに避難する③浸水が始まっていた場合避難すると危ないため、垂直避難を行う④避難する時は運動靴にする⑤事前に避難場所や経路を確認しておく⑥避難するときに川の近くは通らない⑦避難の途中で危険を感じたら高い場所に逃げる。

風水害の避難のポイントを学ぶことで、「自分の命は自分で守る」という姿勢を身につけてもらう。

防災カードゲーム シャッフル

分類	レベル	形式	人数	場所	時間
災害全般	2	演習	3～8人	教室	45分
学習の目標					
カードゲームを通じて災害時に使う資機材の使い方などを学ぶことで、災害時に地域の活動に積極的にかかわることができるようにする。					
用意するもの					
<p>★防災危機管理課から受け取るもの★</p> <p>① 防災カードゲーム「シャッフル」……必要数（最大15セット）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びかた ・カード、ポイント <p>★キャビネット内データ★</p> <p>② 振り返りシート……児童・生徒の人数分</p>					
<p>① </p>					
事前の準備・実施上の注意点					
<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 防災危機管理課から防災カードゲーム「シャッフル」を必要数受け取る。 <input type="checkbox"/> 遊びかたに目を通しておく。 <input type="checkbox"/> 3～8人のグループ分けを行っておく。 <input type="checkbox"/> グループごとカードゲームを1セットずつ配布する。 <input type="checkbox"/> カードゲームをしやすいよう机をグループごとくっつける。 <input type="checkbox"/> 振り返りシートを必要数印刷する。 					
指導のポイント					
遊びで終わらないよう、ゲームを通して学んだ知識で自分が地域で活躍する存在になるということをしっかり伝える。					
ひと工夫					
授業時間に余裕があれば、今回のゲームに出てきた「応急手当」「毛布担架」「紙食器づくり」「空き缶ランタン」「水のろ過」などの防災教育メニューも併せて実践してみる。					

1 【導入・準備】ゲームの準備をする（5分）

遊びかたに従い、カードを並べたり、配布したりする。
ルールをクラス全体に説明する。

地震などの大規模災害時には、小・中学生も戦力として活躍できることを伝え、自分が近所の人を助けられるように色々な知識を身に付けてもらう。

2 【本編】カードゲームをする（30分）

じゃんけんなどで順番を決め、ルールに従いゲームをする。

学習になるよう、カードがそろったらポイントをもらう児童がグループのみんなにそれぞれのカードの内容を正しく説明する。

3 【結論】今日のまとめ（5分）

災害の時は、消防・警察などがすぐに駆け付けられないため、小・中学生も地域の大人と一緒にできることをやるのが大事だということを伝え、今日学んだ資機材の取り扱い、応急手当などを生かして災害の時には積極的に活躍して欲しいということを伝える。

時間があれば、クラス全体で自分たちに何ができるのかを話し合う。

4 【片付け】今日のまとめ（5分）

カードを種類ごと分類し、ケースにしまって輪ゴムで止める。
振り返りシートを記入する。

防災いろはかるた

分類	レベル	形式	人数	場所	時間
災害全般	1	演習	～8人	教室	45分
学習の目標					
防災カルタで遊びながら様々な防災の知識を身につけ、「自分の命は自分で守る」ことができるようにする。					
用意するもの					
<p>★防災危機管理課から受け取るもの★</p> <p>① 防災いろはカルタ……………必要数（最大6セット）</p> <p>★キャビネット内データ★</p> <p>② 振り返りシート……………児童・生徒の人数分</p>					
事前の準備・実施上の注意点					
<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 防災危機管理課から「防災いろはカルタ」を必要数受け取る。 <input type="checkbox"/> 振り返りシートを人数分印刷する。 <input type="checkbox"/> ～8人のグループ分けを行っておく。 <input type="checkbox"/> グループごとカルタセットを1セットずつ配布する。 <input type="checkbox"/> カルタをしやすいよう机をグループごとくっつける。 <input type="checkbox"/> 時間的にすべてのカードは読めないため、余裕があれば、読み札を見て読みたいカードを選ぶ。 					
指導のポイント					
遊びで終わらないよう、ゲームを通して学んだ知識で自分が地域で活躍する存在になるということをしっかり伝える。					
ひと工夫					
授業に余裕があれば、今回のゲームに出てきた「応急手当」「毛布担架」「紙食器づくり」「空き缶ランタン」「水のろ過」など他の教育メニューも実践として合わせて実施する。					



1 【導入・準備】 ゲームの準備をする（5分）

カルタを箱から取り出し、シャッフルして絵のある面を上にして並べる。

※カルタの読むカードも一緒に入っているが児童は使用しない。

振り返りシートをゲームを始める前に見せ、「後でカルタの中で自分ができそうなことを振り返りシートに書いてもらうため、考えながらカルタを取る」ように伝える。

2 【本編】 カルタをする（30分）

教員が読み手となり、カルタを行う。

※時間的にすべてのカードは読めないと思われるため、時間で区切り途中でやめる。

自分ができそうなことを考えながらカルタを取ってもらう。

3 【結論】 今日のまとめ（10分）

カルタの中で自分がすぐにでも実践できそうなことをそれぞれ振り返りシートに記入する。

時間に余裕があれば、何人かの児童に発表させる。

自分ができるところを取り組み、「自分の命は自分で守る」ことを伝える。

まとめが終わったら振り返りシートの残りの部分を記入し、カードを片付ける。

時間があれば、クラス全体で自分たちに何ができるのかを話し合う。

自分の家の危険をを考えてみよう！

分類	レベル	形式	人数	場所	時間
地震	1	演習	—	教室	45分

学習の目標

自分の命を守るために、事前に自宅でどのような対策をしておけばいいかを学ぶ。

用意するもの

★防災危機管理課から★

- ① 防災コミュニティマップ作成の手引き…………… 1部

★キャビネット内データ★

- ② 「自分の命は自分で守ろう」パワーポイントデータ
③ 防災コミュニティマップ作成の手引きデータ

★学校で用意するもの★

- ④ パソコン
⑤ プロジェクター
⑥ パソコン用スピーカー（スライドから音声流れます）
⑦ スクリーン又はスライドを映し出せるもの
⑧ 豊橋市防災ガイドブック（教員用）…………… 1部



★宿題★

- ⑨ 防災コミュニティマップ作成の手引きp6 「我が家の防災マップ」

事前の準備・実施上の注意点

- 防災危機管理課から「防災コミュニティマップ作成の手引き」を1部受け取り、宿題として配布する6ページを印刷する。
- キャビネットから「自分の命は自分で守ろう」パワーポイントデータを出す。
- 教員は、「豊橋市防災ガイドブック」に掲載されている、「地震災害から身を守る」（p3-13）を読んでおく。
- パソコン、プロジェクターをセットし、スライドがきちんと映るか、スライドの音声等が適切に動作するか確認する。
- スライドごとにアニメーションと音声がついています。音声なしでスライド投影のみで行いたい場合は、音量を0にしてください。
スライドを止めずに音声付で使用する場合、40分程度かかります。

指導のポイント

実際に自分や家族の身にどのような危険が起こるかを考えてもらい、自分事として考えてもらう。

ひと工夫

児童・生徒が実際に自宅でしている対策があれば、クラス全体に共有したりするとイメージがしやすくなってGood!!また、その時に写真などを使って実際の対策を見ることができると想像が付きやすくなる。

実施手順・内容

1 【導入】地震をイメージする（5分）

パワーポイントを使って南海トラフ地震が起こる仕組みについて学ぶとともに、過去の大きな地震災害（阪神・淡路大震災、中越地震、熊本地震）の写真を見て地震の怖さを学ぶ。

写真では、何がどうなっているか分かりづらいため、地震の怖さを子どもが理解しやすいよう地震被害の写真の解説を行う。

例) 高速道路が倒れている、津波で船が家の方まで流されている、身近な人が被害にあうなど

2 【本編①】南海トラフ地震発生時の豊橋市の被害想定を知る（10分）

パワーポイントを使用し、南海トラフ地震が発生した際の、豊橋市の被害想定を学ぶ。

自分の身にも危険が及ぶ可能性が高いことが分かるよう、自分たちの小学校区の被害想定を中心に話す。

3 【本編②】自分の家の危険を知る（15分）

宿題で作成した「我が家の防災マップ」を隣と見せ合って違いや気を付けることなどを話し合い、事前に準備をしておくこと、改善した方がよいことなどをクラス全体で共有する。

「自分の家は危ないと思った」で終わらず、「寝ている間に本棚で潰される」など、自分への影響を考えられると良い。また、身を守る対策を実践するために、何をしたらよいかについても話すより効果的な学習となる。

例) 寝る位置を変える、棚に飾ってあるものをどかす、など

4 【発展】学校の危険を知る（10分）

手順4で学んだことをもとに、教室の危険を考えクラス全体で共有してみる。

教室の危険チェック図の作成は宿題とする。

各自が教室の危険チェック図を確認できるように、何がどんな理由で危ないのかみんなで出し合って考えてみる。余裕があれば、その対策についても話し合う。

例) ・教室のガラスは飛散防止をしていないと割れて飛んでくるかもしれない
・固定されていない掃除道具入れは倒れて前にいる児童が潰されてしまうかもしれない

5 【結論】今日のまとめ（5分）

自分の周りの危険を考え、事前に備える大切さを再確認し、早速家で実践するよう促す。

家、学校に限らず自分が行動する様々な場所でどんな危険があるのか、その時どうすればいいか考えておくといざという時に命が助かることを伝える。その時、自分だけでなく、家族と一緒に考えてみようとして投げかける。

通学路の危険をを考えてみよう！

分類	レベル	形式	人数	場所	時間
地震	2	演習	～6人	教室／学校外	45分

学習の目標

自分と通学団の低学年の子の命を守るために、事前に自宅でどのような対策をしておけばいいかを学ぶ。

用意するもの

★防災危機管理課から★

- ① 防災コミュニティマップ作成の手引き……………1部

★キャビネット内データ★

- ② 防災コミュニティマップ作成の手引きデータ

★学校で用意するもの★

- ③ パソコン
 ④ プロジェクター
 ⑤ スクリーン又はパソコンの映像を映し出せるもの
 ⑥ 豊橋市防災ガイドブック（教員用）……………1部
 ⑦ タブレット



事前の準備・実施上の注意点

- 防災危機管理課から「防災コミュニティマップ作成の手引き」を1部受け取り、危険な場所安全な場所が乗っているp9をグループの数印刷する。
- 教員は、「豊橋市防災ガイドブック」に掲載されている、「地震災害から身を守る」（p3-13）を読んでおく。
- 通学路が近い子ども同士でグループを作る。
- （教室で行う場合）
子どものタブレットでGoogleストリートビューやGoogleアースが見られるか確認する。
- （屋外で行う場合）
安全を確保するため、必要に応じて他の教職員や地域の方の協力を仰ぐ
- 通学路のマップを印刷する。

指導のポイント

通学の時にどんな危険が起こるかを事前に考えてもらい、自分や周りの友達を守方法を考えてもらう。

ひと工夫

危ないものや安全なものを考えるだけでなく、危険を回避する方法や消火器などの使用方法なども併せて学べると◎。

実施手順・内容

1 【導入】地震をイメージする（5分）

パワーポイントを使って南海トラフ地震が起こる仕組みについて学ぶとともに、過去の大きな地震災害（阪神・淡路大震災、中越地震、熊本地震）の写真を見て地震の怖さを学ぶ。

写真では、何がどうなっているか分かりづらいため、地震の怖さを子どもが理解しやすいよう地震被害の写真の解説を行う。

例) 高速道路が倒れている、津波で船が家の方まで流されている、など

2 【本編①】南海トラフ地震発生時の豊橋市の被害想定を知る（5分）

校区のハザードを学ぶ。

校区で何が危険なのか伝える（津波・建物倒壊・火災・液状化など）。

3 【本編②】通学路の危険・安全を知る（30分）

通学路を歩く／タブレットで閲覧する方法により、自分たちの通学路の危険・安全を調べる。

歩きながら、危険・安全な場所を地図に落とし込む。消火器等の設備の使い方や、危険の回避方法など気になったことを後から確認できるようにしておく。

5 【結論】今日のまとめ（5分）

自分たちを守るために普段から考えておく必要があることを伝える。

通学路に限らず自分が行動する様々な場所でどんな危険があるのか、その時どうすればいいか考えておくといざという時に命が助かることを伝える。その時、自分だけでなく、家族と一緒に考えてみようとして投げかける。

学校を探検してみよう！

分類	レベル	形式	人数	場所	時間
地震	1	演習	5～6人	学校内	45分／90分

学習の目標

学校探検で避難所になる学校のことを知り、学校にどのような危険・安全があるかを学ぶ。

用意するもの

★キャビネット★

- ① 被災地の写真・動画…必要数
※動画は、パソコンをインターネットに接続し、DVD内のURLリンクからご覧ください。
- ② 校内防災探検シート…児童・生徒の人数分

③



②



<発展編をやる場合>

- ③ 「豊橋市の資機材」スライド

★個人で用意するもの★

- ④ バインダー
- ⑤ 筆記用具

★学校で用意するもの★

- ⑥ 豊橋市防災ガイドブック（教員用）……1部

<発展編をやる場合>

- ⑦ 防災倉庫の鍵

⑥



事前の準備・実施上の注意点

- 校内防災探検シートを必用部数印刷する。
- 児童にバインダー・筆記用具を用意してもらう。
- 「豊橋市防災ガイドブック」に掲載されている、「地震災害から身を守る」（p3-13）を読んでおく。
- 学校の設備等について調べておく。
- 5～6人のグループ分けをする。

<発展編をやる場合>

- 資機材の使い方を確認しておく。

指導のポイント

学校ごとに設備が違うので、事前に調べておく必要がある。学校にある設備は教職員の方は知っておく必要がある。消防署の方の協力を得るなどして、この機会に調べておく。

ひと工夫

見つけるものを「消火器」などに限定し、何個見つけられるかを班ごとに競う方法もある。

実施手順・内容

1 【導入】探検の説明（10分）

災害時は、家が被災すると学校が家の代わりの生活場所になることを学び、学校にどのような危険・安全があるか確認する。シートを配布し、何を探せばいいのか、具体例を少し紹介する。

大規模災害のときには、普段使っている体育館が避難所となることを説明し、学校にどんな危険があり、どのような設備があるのか考えてもらう。また、災害用の資機材としてどのようなものが何の目的で配備されているのかを理解する。

2 【本編】学校探検をする（基本：25分／発展：30分）

集合時間・場所をつたえ、グループごと学校探検を行う。発見したものは、シートに記入する。

危険なものについては、どのようにすればいいのかも併せて考えるとよい。

3 【結論：基本編】発表・まとめ（10分）

各グループごと発見したものを発表する。

災害時に避難所となる学校で、地域の中で自分ができることを探して活躍して欲しいということを伝える。

校内の地図を貼り出し、各グループごと書き加えてもらう方法もある。時間があれば、見つけた設備などの使い方や用途を一緒に考える。

【結論：発展編】発表・資機材の使い方・まとめ（40分）

各グループごと発見したものを発表する。資機材を実際に取り扱ってみる。

災害時に避難所となる学校で、地域の中で自分ができることを探して活躍して欲しいということを伝える。

エネポを稼働させる場合は、一酸化炭素が発生するため、必ず外で行うこと。

防災コミュニティマップで まち歩きをしてみよう！

分類	レベル	形式	人数	場所	時間
地震	2	演習	—	学校外	45分／90分

学習の目標

作成された防災コミュニティマップを見ながら街歩きすることで町の危険箇所・安全箇所を知り、災害時の自助の大切さについて学ぶ。

実施可能校区（令和4年度末時点）

汐田校区／賀茂校区／芦原校区／吉田方校区／下地校区／栄校区／野依校区／牟呂校区／多米校区／前芝校区／幸校区／津田校区／磯辺校区／東田校区／旭校区／小沢校区／松山校区／老津校区

用意するもの

★防災危機管理課から受け取るもの★

- ① 防災コミュニティマップ

※校区によって紙媒体の地図を配布できることがありますので、一度お問い合わせください。

★キャビネット内データ★

- ② 被災地の写真…必要数
③ 防災コミュニティマップ…児童・生徒の人数分（PDFを印刷する場合）

★個人で用意するもの★

- ④ バインダー
⑤ 筆記用具

★学校で用意するもの★

- ⑥ 豊橋市防災ガイドブック（教員用）……1部



事前の準備・実施上の注意点

- 防災危機管理課に防災コミュニティマップの在庫があるか確認する。
PDFデータを印刷する場合は、キャビネットのデータを印刷し、使用する。
- 児童にバインダー・筆記用具を用意させる。
夏は暑いため、飲み物や帽子を用意すること。
- 教員は「豊橋市防災ガイドブック」に掲載されている、「地震災害から身を守る」（p3-13）を読んでおく。
- 防災コミュニティマップを確認しておく。
- 街歩きをするルートを決める。歩く範囲によって、45分か90分か授業時間を決める。

指導のポイント

街中、学校とも自分の周りに色々な危険が潜んでいることを認識してもらい、いざというとき自分がどのような行動を取るのかあらかじめ考えておく姿勢を身につけてもらう。

ひと工夫

自分で見つけて書き加えた危険箇所などをグループごとに話し合う時間を作ればより学習が深まる。また、家族で避難ルートなどを話し合ってもらうことに繋がれば、家族の自助が強化される。地域の人や親子での実施をすることでより理解が深まる。

実施手順・内容

1 【導入】災害時の町の危険・自助について知る（10分）

災害時に自分の身を守る方法について学ぶ。町の中にある危険を想像してみてもクラス全体で共有してみる。

自分の身を守るためには、普段から自分の身の回りにどんな危険があるのかを知っておくことが大切。作成された防災コミュニティマップと見比べながら、今の町（通学路など）にどんな危険があるのかを知っておくと、何かあったときにすぐに対応ができる。

例) こんなときどうする？

高いところにある看板→揺れで落ちてくるかも

ブロック塀→倒れてくるかも

マンホール→液状化で浮いてくるかも

自動販売機→倒れてくるかも

キャビネットの被災写真などを見るとより分かりやすく伝わる。

2 【本編】コミュニティマップを参考に街歩きをする（30分/50分）

あらかじめ決めたルートを歩きながら、作成済みコミュニティマップとの違い（新たな建物が増えていないかなど）、危険箇所・安全箇所の確認を行う。

余裕があれば、配布した地図に自分で見つけた危険物や変わったところなどを追加で書き込むと良い。

3 【結論】今日のまとめ（5分/10分）

あらかじめ自分で危ない箇所を認識しておくこと、避難するルートを確認しておくことの大切さを再確認する。

事前に知って考えておかないと何が起ころか想像できずにすぐに対応できないことを伝え、事前に自分の避難ルートなどを家族と話しあっておくことの大切さを認識してもらう。

避難所生活を体験してみよう！

分類	レベル	形式	人数	場所	時間
災害全般	2	実技	—	体育館	45分／90分

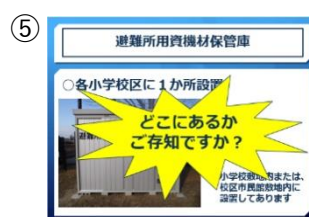
学習の目標

災害時に開設される避難所の体験を行うことで、避難所生活の大変さを理解し、自分の備えの大切さを理解する。

用意するもの

★防災危機管理課から受け取るもの★

- ① 豊橋市が備蓄しているの備蓄品（非常食試食を行いたい場合）
※タイミングや年によって必要数お渡しできないこともあります。
- ② 間仕切り・テントなど必要な資機材（※希望する場合）



★キャビネット内データ★

- ③ 被災地の写真…必要数
- ④ 豊橋市の備蓄品紹介パワーポイント
- ⑤ 豊橋市の資機材紹介パワーポイント

★個人で用意するもの★

- ⑥ 自宅の非常持出品（子ども用）

★学校で用意するもの★

- ⑦ 豊橋市防災ガイドブック（教員用）……1部
- ⑧ 簡易トイレ・ライト類・発電機等（※希望する場合）
- ⑨ 資機材保管場所のカギ（※学校の資機材を使用する場合）

事前の準備・実施上の注意点

- 授業時間に応じて避難所生活体験で何を行うか決定する。
- 実施するメニューに応じて必要なものを用意する。
- 教員は「豊橋市防災ガイドブック」に掲載されている、「地震災害から身を守る」（p3-13）を読んでおく。

指導のポイント

実際の避難所を体験することで、困難を感じるポイントをみんなで話し合い、事前に非常持出品等の対策を考える。

ひと工夫

自分で見つけて書き加えた危険個所などをグループごとに話し合う時間を作ればより学習が深まる。また、家族で避難ルートなどを話し合ってもらうことに繋がれば、家族の自助が強化される。地域の人や親子での実施をすることでより理解が深まる。

避難所生活体験メニュー

① 非常食を試食してみよう

必要なもの：市の備蓄食料（おかゆ・パン缶・乾パンなど）

必要時間数：10～15分程度

注意事項：備蓄食料の入れ替えのタイミングでしか配布できないため、お渡しできないこともあります。

② テント・間仕切りでプライベート空間を確保しよう

必要なもの：間仕切り、テント

必要時間数：20～30分

③ 簡易ベッド・ダンボールベッドを体験してみよう

必要なもの：簡易ベッド、ダンボールベッド

必要時間数：20～30分

④ 避難所の明かりを確保しよう

必要なもの：スミライト、スタンドライトセット、エネポ（各学校にあります）

必要時間数：20～30分

⑤ 災害時のトイレを体験してみよう

必要なもの：簡易トイレ、ワンタッチテント、マンホールトイレ式

必要時間数：20～30分

⑥ 非常持出品を比べてみよう

必要なもの：自宅で備えている非常持出品

必要時間数：10～30分

実施手順・内容

1 【導入】災害時の避難所について知る（10分）

被災地の避難所の写真を見せ、避難所生活の問題点などを話し合う。

- ・ 停電：暗い、スマホなど重電できない
 - ・ 断水：トイレが流せない、お風呂がない、手も洗えない、歯磨きできない
 - ・ 集団生活：様々な年齢の人との集団生活
 - ・ 不衛生：集団生活により埃なども多くなる、感染症が蔓延しやすい
- などいろいろな問題を話し合ってみる。

2 【本編】避難所の生活を体験する（30分／70分）

上のメニューを参考に、避難所の中で体験してみたいことを体験する。

資機材があり／なしの違いを体験してみる。

3 【結論】今日のまとめ（5分／10分）

避難所での生活の厳しさと自分での備えの大切さを再確認する。

オリジナル間仕切り を作ってみよう！

分類	レベル	形式	人数	場所	時間
災害全般	1	実技	—	体育館	45分
学習の目標					
身の回りにあるものを工夫して使用することで、発災時にも様々な環境改善が行えることを学ぶ。					
用意するもの					
<p>★防災危機管理課から受け取るもの★</p> <p>① 間仕切り・テントなど必要な資機材（※希望する場合）</p> <p>★キャビネット内データ★</p> <p>② 被災地の写真（初期の避難所）…必要数</p> <p>★個人で用意するもの★</p> <p>③ ダンボール</p> <p>④ カッター、はさみ</p> <p>★学校で用意するもの★</p> <p>⑤ 豊橋市防災ガイドブック（教員用）……1部</p> <p>⑥ マジックペン（カラー）</p>					
					
事前の準備・実施上の注意点					
<input type="checkbox"/> 授業実施前にダンボールを持ってくるよう児童に伝える。 <input type="checkbox"/> 被災地の避難所の写真を印刷する。 <input type="checkbox"/> 間仕切りやテントを使用する場合は、防災危機管理課から借用する。 <input type="checkbox"/> 教員は「豊橋市防災ガイドブック」に掲載されている、「地震災害から身を守る」（p3-13）を読んでおく。					
指導のポイント					
ダンボールが間仕切りになったり、ベッドになったり、机になったり色々なものに使用できることを伝える。					
ひと工夫					
例えば、ダンボールでお盆を作り、非常食を運んでみるなど、他の訓練メニューと併せて行うこともできる。					

1 【導入】災害時の避難所について知る（10分）

被災地の避難所の写真を見せ、避難所生活の問題点などを話し合う。

- ・ 停電：暗い、スマホなどの充電ができない、マンションなど水が使えない
 - ・ 断水：トイレが流せない、お風呂がない、手も洗えない、歯磨きができない
 - ・ 集団生活：様々な年齢の人との集団生活、プライベート空間がない
 - ・ 不衛生：集団生活により埃なども多くなる、感染症が蔓延しやすい
 - ・ その他：食事などが運びにくい、食べる場所がない
- などいろいろな問題を話し合ってみる。

2 【本編】ダンボールで各自思い思いの避難所グッズを作る（30分）

上のメニューを参考に、避難所の中で体験してみたいことを体験する。


資機材があり／なしの違いを体験してみる。

3 【結論】今日のまとめ（5分）

避難所や自宅で普段あるものを活用できることを再確認する。

時間があれば、お互いの作品を紹介しあったり、保護者にも触って体験してもらおうと家族全体の防災意識が高まり、より効果的になる。

対決！毛布担架リレー

分類	レベル	形式	人数	場所	時間
地震	1	実技	6～8人	体育館	45分
学習の目標					
毛布担架リレーを通じて災害時の救助方法を学ぶことで、災害時に地域の活動に積極的にかかわることができるようにする。					
用意するもの					
<p>★防災危機管理課から受け取るもの★</p> <p>① 毛布……………グループに1枚</p> <p>★学校で用意するもの★</p> <p>② カラーコーン……グループに1つ</p>					
① 					
事前の準備・実施上の注意点					
<input type="checkbox"/> 防災危機管理課から毛布を必要枚数受け取る。 <input type="checkbox"/> 事前に毛布担架の作り方を覚えておく。 <input type="checkbox"/> 低学年は、1グループあたり6～8人となるようにグループ分けを行う。 <input type="checkbox"/> リレーのスタート位置（傷病者の位置・毛布を置く位置）・折り返し地点・ゴール位置を決める。 <input type="checkbox"/> リレーで折り返す位置にカラーコーンを置く。					
指導のポイント					
<p>ふざけたり、無理やり引っ張ったりするとケガに繋がるため、実際に怪我をしている人を搬送していることを想像して丁寧に行うよう指導する。</p> <p>頭は重く、けがをする危険性が高いため、頭の位置にも1名人つけると◎。また、不安がある場合、ヘルメットを着用すること。</p>					
ひと工夫					
時間的に余裕があれば、搬送を繰り返し、様々な立場を体験させる。					

1 【導入】 災害時の共助について話す（5分）

地震発災直後は、道路が寸断され、いろいろな場所で被害が起これ、警察・消防が出動して人命救助を行うことが難しく、阪神淡路大震災でも80%が地域住民により救出されている。

毛布担架体験を始める前に、災害時に小学生が地域で活躍できる存在であることを伝え、自分ができることを探して大人を積極的に手伝う姿勢を持ってもらえるよう共助について説明する。

災害時には、まずは「自分の命は自分で守り」、その後周りの大人を手伝う姿勢を持つことが大切。実際に過去の事例で、避難生活の中で、小学生や中学生が足の悪い高齢者に食事を運んだり、支援物資を運ぶのを手伝ったりしている事例があることを伝えることで、実際に自分でもできるという意識を持ってもらう。

2 【本編】 毛布担架の作り方を学ぶ（10分）

各グループに1枚ずつ毛布を配り、毛布担架の作り方を説明する。実際に児童にも一緒に作ってもらう。試しに交代で毛布に乗ってみる。

- ①負傷者の横に毛布を広げる
- ②負傷者を傾け、負傷者の下に毛布を半分入れる。
- ③反対側を向けて、毛布を伸ばす。
- ④毛布の上に乗った状態になる。



⑤余白を負傷者の方へ丸める。



⑥掛け声をかけて持ち上げる。



⑦足の方向から搬送する。



※両手の間隔をあけるともちやすい。



※隣の人と内側の手をクロスさせると安定する。

※子どもの場合、6人以上で行うこと。

竹などの長い棒を使った毛布担架づくりもあるが、家ですぐに長い棒を確保できるとは限らないため、毛布のみで担架を作る。乗った人が怪我しないよう、片側につき3人合計6人で毛布担架を持ち上げる。人数に余裕があれば、頭の位置にも1名つける。

実施手順・内容

救助役の児童がふざけて勢いよく傷病者役を動かすとケガに繋がるため、ふざけず、「1・2、1・2」と声をかけあいながらゆっくり移動させること。

3 【本編】毛布担架リレー (20分)

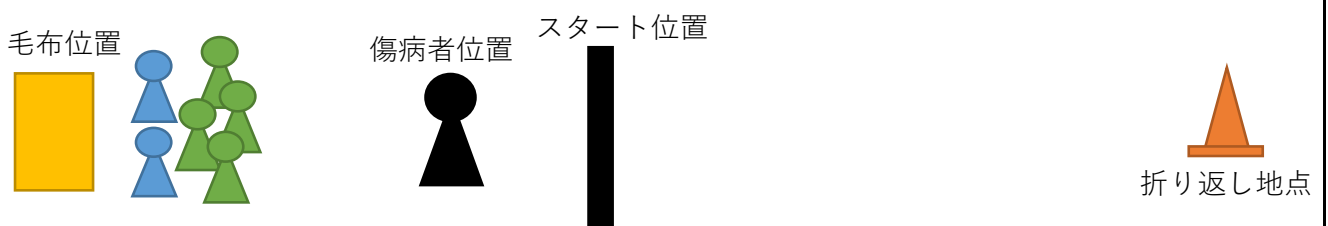
往復する回数に応じて傷病者役・搬送役を数人決める。

傷病者の位置・毛布の位置・折り返し地点・ゴールの位置をそれぞれ決め、説明する。

<リレー方法案>

①スタート前 ※人黒：傷病者役、人青：毛布運ぶ役（2人）、人緑：毛布準備役（残り）

傷病者位置に傷病者が寝る、毛布位置に畳んだ毛布を置く、折り返し地点にカラーコーンを置く。



②スタート後 ※人黒：傷病者役、人青：毛布運ぶ役（2人）、人緑：毛布準備役（残り）

毛布運ぶ役2人は、毛布を運び、残りのメンバーと一緒に毛布をセッティングする。



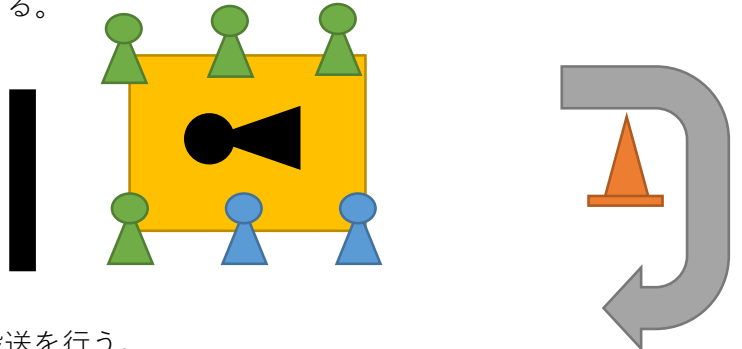
③毛布での搬送開始

傷病者役を毛布に乗せたら毛布担架で搬送する。

※足から搬送。掛け声をかける。



人数に余裕があれば、残った人は救助位置で待機する。



④ゴール地点に戻ったら役割を変えて再び搬送を行う。

ケガがないよう、引きずったり、ふざけたり、落としたりすることがないように注意する。

4 【結論】今日のまとめ (5分)

災害の時は、地域の中で自分ができることを探して活躍して欲しいということを伝える。

自分の身を守った後、地域の中で自分ができることを積極的に手伝う姿勢を身に着けるため、時間に余裕があれば、クラス全体で感想や自分がどんなことを手伝えそうか共有を行う。

身近なもので友達を助けよう！

分類	レベル	形式	人数	場所	時間
地震	2	実技	—	教室	45分
学習の目標					
身近なものを使った応急手当を学ぶことで、災害時に自宅や地域で大人の手伝いを積極的に行えるようにする。					
用意するもの					
★個人で用意するもの★					
① タオル、ガーゼ、ハンカチのうちいずれか…個人で家にあるものを用意する					
② 風呂敷又は大きめのビニール袋…個人で家にあるものを用意する					
③ 雑誌又は新聞紙…あれば個人で用意する					
④ ラップ…個人で家にあるものを用意する					
⑤ ストッキング又はタイツ…個人で家にあるものを用意する					
⑥ 三角巾…個人で用意する					
⑦ 傘又は段ボール…個人で用意する					
事前の準備・実施上の注意点					
<input type="checkbox"/> 家からもってくるものを児童に伝える。 <input type="checkbox"/> 教員は、事前に身近なものを使った応急救護をやってみる。 <input type="checkbox"/> 時間に応じて、実施手順の③～⑤を選んで実施する。					
指導のポイント					
応急手当は痛みの軽減や悪化の防止も目的にしているため、ケガをしている箇所が動かないようにしっかり固定するとともに、ケガの箇所に触ったりすることがないように指導する。必要に応じて養護教諭の先生にも指導してもらおうと良い。					
ひと工夫					
ケガの想像がつきにくく場合は、ケガの箇所にテープを張るなどして、どこを固定するか、触らないようにするか分かりやすくする。					

1 【導入】 応急手当の目的・災害時の共助について話す（5分）

災害時に小学生が地域で活躍できる存在であることを伝え、自分ができることを探して大人を積極的に手伝う姿勢を持ってもらえるよう共助について説明する。

応急手当は、命を救うことに繋がる以外にも、悪化の防止、苦痛の軽減の意味合いがあることを教える。

災害時には、まずは「自分の命は自分で守り」、その後周りの大人を手伝う姿勢を持つことが大切。実際に過去の事例で、避難生活の中で、小学生や中学生が足の悪い高齢者に食事を運んだり、支援物資を運ぶのを手伝ったりしている事例があることを伝えることで、実際に自分でもできるという意識を持ってもらう。

2 【本編】 応急手当の分類を学ぶ（5分）

応急手当を学ぶにあたり、ケガの種類によってどのような対応を行えばいいのか考える。

①切り傷などにより血が出ている場合→→→**止血**

②打撲、捻挫、脱臼などの場合→→→**固定**

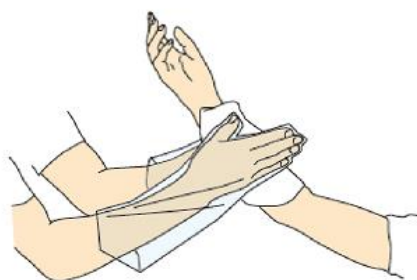
3 【本編】 止血法を学ぶ（10分）

血が出ているところを直接圧迫して、血を止める方法を教える。

①きれいなハンカチ・タオルなどを傷口にあて、上から強く抑える。

②ラップ・ネクタイなどで、①のハンカチ等を固定する。

頭をけがしている場合、ストッキングを使用するとやりやすい。



(1) 切らずにそのままパンツ部から被せます。
うしろで交差させます。

(2) そのまま足の部分をくると
まわして前で結びます。
(清潔なガーゼを傷口に当てましょう!)



止血の際は、感染予防のため、ビニール袋などを必ずつけて直接血に触れないようにする。

4 【本編】三角巾の使い方を学ぶ（10分）

三角巾を使った固定方法等を教える。

<頭のケガの場合>

- ①三角巾をすべて開いた状態で、底辺を1回折り返して額に当てる。
- ②三角巾の両端を頭の後ろで交差して、額の前で結ぶ。
- ③余った三角巾をくるくる丸めて落ちないように隙間に差し込む。



<腕のケガの場合>

- ①三角巾をすべて開いた状態で、ケガをしていない側の肩から負傷した側の脇にかけて差し込む。
- ②三角巾の底辺にあたる両端を首の後ろで結ぶ。
- ③安定感を出すため、肘部分の頂点を結んでおく。



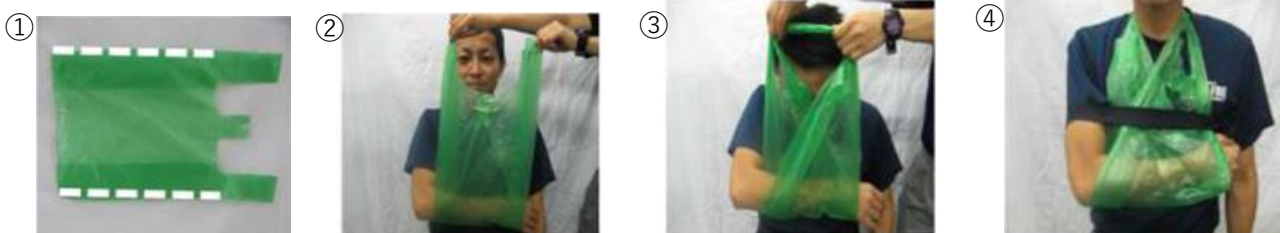
腕を釣った時に手のひらが肘より下にあると、手のひらに血がたまってしまうため、必ず肘より上に手のひらがくるようにする。

5 【本編】身近なもので固定する方法を学ぶ（10分）

身近なものを使った固定方法等を教える。

<ビニール袋を使う場合>

- ①ビニール袋の両端を切る。
- ②ケガをしている腕を切った部分に通す。
- ③袋の取手部分を頭にかぶせる。
- ④ベルトなどがあれば、固定すると安定感が増す。



<ラップを使う場合>

- ①雑誌・新聞などで腕を固定する。
- ②ラップで体に巻き付ける。



<傘や段ボールとネクタイを使う場合>

- ①傘をケガした足の両側にあて、その下にネクタイを4本準備する。
ダンボールの場合は、数回折り曲げて強度を出して足の両側にあてる。
※固定する傘は、足の付け根からかかとまでの長さのものがいい。
- ②痛みが激しい場所の上下をネクタイで結ぶ。
※足と傘の間に隙間ができるようであれば、タオルなどを入れて隙間を埋める。



6 【結論】今日のまとめ（5分）

災害の時は、地域の中で自分ができることを探して活躍して欲しいということを伝える。

自分の身を守った後、地域の中で自分ができることを積極的に手伝える姿勢を身に着けるため、時間に余裕があれば、クラス全体で感想や自分がどんなことを手伝えようか共有を行う。

空き缶でランタンを作ろう！

分類	レベル	形式	人数	場所	時間
災害全般	2	実技	—	教室	45分
学習の目標					
身近なものを使ったランタンづくりを学ぶことで、災害時にどのような備えが必要になるのか、また、事前の備えの大切さについて学ぶ。					
用意するもの					
<p>★個人で用意するもの★</p> <p>① ジュースなどの空き缶…1つ ※細長いもの</p> <p>② 油性ペン…1本</p> <p>③ ろうそく…1本</p> <p>④ 缶切り…1つ</p> <p>⑤ 軍手…1組</p> <p>★学校で用意するもの★</p> <p>⑥ ライター又はチャッカマン</p> <p>⑦ 画鋏…生徒の人数分の個数 ※持ち手のついているものがいい</p>					
					
持ちやすいものを用意する。					
事前の準備・実施上の注意点					
<input type="checkbox"/> 家からもってくるものを児童に伝える。 <input type="checkbox"/> ケガのないよう、忘れた児童の分の軍手をいくつか備えておく。					
指導のポイント					
災害時は、停電、断水などが1週間以上続くことを説明し、自分でライフラインの代替手段を確保することが大切だということを強調する。ランタンの作成にあたっては、ケガに十分注意すること。					
ひと工夫					
野外学習でも活用できるため、宿泊を伴う野外学習に併せて実施すると、実際に夜にランタンの明かりを使って時間を過ごせる。					

1 【導入】 災害時のライフライン被害について話す (5分)

大きな地震などが発生すると、電気、水道などのライフラインは少なくとも1週間以上、長ければ1カ月以上途絶することを説明し、その対策として、どのようなことができるかについて意見を出し合う。

災害時には、まずは「自分の命は自分で守り」が重要となる。自分の命を守った後、どのような被災生活を送ることになるのか説明しながら考えさせる。
教室で行う場合、カーテンを閉めて、電気を消す等疑似体験を併せて行うと効果的。

2 【本編】 缶に絵を書く (10分)

空き缶に油性ペンで好きな絵を書く。

3 【本編】 絵の線にそって画鋏で穴をあける (10分)

画鋏で缶に穴をあける前に、ケガの防止のため、軍手をする。
空き缶に書いた絵の線に沿って穴をあける。

完成イメージ



穴をあけた部分から光が漏れるようになるため、適当な間隔で穴をあける。
ケガのないよう必ず軍手をする。

4 【本編】 缶切りで、空き缶の上の部分をあける (10分)

缶切りで空き缶の上部分をあける。



ケガのないよう必ず軍手をする。

5 【本編】 缶の底にろうそくを固定し、火をつける（10分）

空き缶の底にろうそくを固定する。ろうそくを溶かして底に垂らし、そこにろうそくをたたせて固定する。火をつけて、ランタンが完成。

ろうそくを触ってやけどすることがないように、教員がろうそくを溶かして垂らす作業を行うこと。教室内で火をつける場合は、窓を開けておく。野外学習等で実施する際は、昼に作成し、夜に全員分を作るとイベントの1つにできる。



6 【結論】 今日のまとめ（5分）

災害時には、自分の身近にあるものを上手にを使って、避難生活を乗り切ることが重要となる。事前の備えとしてライトなどを用意する必要性について説明する。

自分の身を守った後、避難生活で必要となるものを事前に備えることの大切さを説明する。ランタンを作るための道具をそろえたが、ライトがあれば作らなくてもすぐに光を確保できる。ろうそくも何もない場合、真っ暗な中での生活となってしまう。

水をろ過して生活用水づくり

分類	レベル	形式	人数	場所	時間
災害全般	1	実技	5~6人	教室	45分

学習の目標

生活用水づくりを体験することで、災害時にどのような備えが必要になるのか、また、事前の備えの大切さについて学ぶ。

用意するもの

★学校で用意するもの★

- ① ペットボトル…グループに1つ
- ② はさみ又はカッター…グループに1つ
- ③ ひも・きり…グループに1つ
- ④ 綿…適量（グループに1つ）
- ⑤ 木炭・小石…適量（グループに1セット）
- ⑥ ペットボトル（水を受ける用）…グループに1つ
- ⑦ 泥水（ペットボトルに入れておく）…各グループに1つ
- ⑧ 資料「身近なものを使って水をろ過する」…児童・生徒の人数分
- ⑨ ケチャップの空容器



<発展をやる場合>

- ⑩ ビーカーなどの透明な容器
- ⑪ 泥水

事前の準備・実施上の注意点

- ろ過装置の見本を作っておく。
- バケツに泥水を作り、グループの数だけペットボトルに入れておく。
- 小石を洗っておく。
- 資料「身近なものを使って水をろ過する」を人数分印刷する。
- 5～6人のグループ分けをする。

<発展をやる場合>

- ビーカーなどの透明な容器に泥水を入れて動かさずに置いておく。
- ビーカーに入れた泥水を放置して、泥が沈殿した上の部分のきれいな水を別のビーカーに入れてさらに放置する。

指導のポイント

災害時は、停電、断水などが1週間以上続くことを説明し、自分でライフラインの代替手段を確保することが大切だということを強調する。

ひと工夫

生活用水186Lが児童・生徒が作ったろ過装置でろ過した水と比較し、どの程度の量なのかを教えることで、どれだけきれいな水の確保が必要なのかを分かりやすく伝える。

実施手順・内容

1 【導入】災害時の状況・災害時の水問題について話す（5分）

大きな地震などが発生すると、電気、水道などのライフラインは少なくとも1週間以上、長ければ1か月以上途絶することも伝える。家に備えた水はほとんどの場合、飲料水のみで、お風呂・トイレ・洗濯など日々使用する水の確保が必要となる。

時間があれば、どのような方法で確保できるのか、児童・生徒に考えさせる。

2 【本編】ろ過装置を作る（20分）

資料「身近なものを使って水をろ過する」を見ながら、ろ過装置を作る。

※資料の中の砂・ティッシュは使用しない。

- ①ペットボトルのキャップを取り、底をカッターで切る。
- ②ペットボトルの口に湿らせた綿を詰める。
- ③ペットボトルの口を下に向け、小石、綿、炭、綿、小石の順にペットボトルに詰める。



3 【本編】水を受けるペットボトルを作り、ろ過装置と重ねる（5分）

ろ過した水を受けるのがペットボトルの場合は、ペットボトルを切る。

- ①ペットボトルを適当な長さで切る。
- ②（2）で作ったろ過装置を上重ねる。



不安定な場合は、ろ過装置にきりで穴をあけて、紐を通す。

実施手順・内容

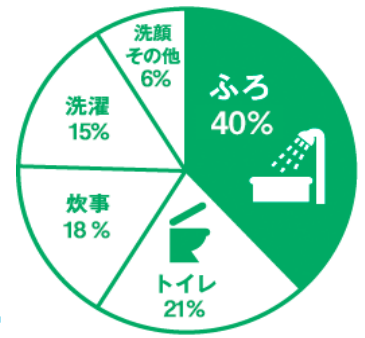
4 【本編】 泥水を入れてろ過してみる (5~10分)

(3) で作ったろ過装置に水を入れてろ過する。



水の使用量と
使用用途

1人約186L



泥交じりの茶色の水がどのようになるのか、しっかり確認させる。ろ過の待ち時間があれば、家にどのくらいの水の備蓄があるか聞いたり、生活用水が1日どのくらい必要になるかのクイズなどをする。

5 【発展：時間があれば】 他の水のろ過方法を知る (5分)

ろ過装置を作らない水のろ過について学ぶ。

**ケチャップなどの
容器も有効活用！**
スポイトがわりにし
てこった水のきれい
な上ずみだけをすいと
ります。

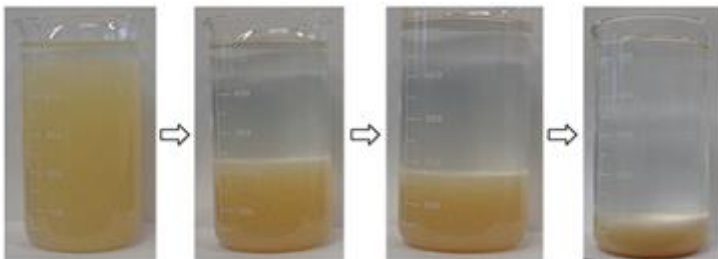


<スポイトを使ったろ過>

- ・泥水を放置して、泥を沈殿させ、上のきれいな部分の水をスポイトですくう。

<放置してろ過>

- ・泥水を放置して、泥を沈殿させ、上のきれいな部分をすくって別の容器に移し、さらに沈殿させる。



6 【結論】 今日のまとめ (5分)

災害の時は、地域の中で自分ができることを探して活躍して欲しいということを伝える。

自分の身を守った後、地域の中で自分ができることを積極的に手伝う姿勢を身に着けるため、時間に余裕があれば、クラス全体で感想や自分がどんなことを手伝えそうか共有を行う。

オリジナル防災グッズを 作ってみよう！

分類	レベル	形式	人数	場所	時間
災害全般	2	実技	—	教室	45分
学習の目標					
新聞紙での防災グッズづくり体験をすることで、災害時に備えるべき自助について学ぶ。					
用意するもの					
<p>★個人で用意するもの★</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 新聞紙やチラシ……必要枚数（紙食器は1種類1枚、スリッパは2枚必要） ② 折り紙 ③ 45Lゴミ袋 ④ はさみ、のり ⑤ 筆記用具 ⑥ 実際に作った紙袋を使ってみる場合は、ラップ又はきれいなビニール袋 <p>★キャビネット内データ★</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑦ 紙食器のつくり方・スリッパのつくり方・ポンチョの作り方…児童・生徒の人数分 <p>★学校で用意するもの★</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑧ ガムテープ 					
事前の準備・実施上の注意点					
<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 紙食器、スリッパ、ポンチョのうち作るものを決める。 <input type="checkbox"/> 必要な資料（作り方）を人数分印刷しておく。 <input type="checkbox"/> 完成見本を作成しておく。 					
指導のポイント					
災害時の備えとして、普段使うものなどを備えておくのが基本だが、かさばる食器やスリッパなど代用できるものは工夫して準備する。また、家族によって使うものが違うため、自分の家族に合ったものを用意することが大切。					
ひと工夫					
紙食器などを使って非常食を食べるなど併せて実施すると、より被災体験ができる。					

1 【導入】災害時の自助について問いかける（10分）

今現在家でどんな備蓄をしているかクラス全体に投げかける。災害時に起こりうる状況と備えをしていない場合にどうになってしまうのかを話す。

例えば、

陶器やガラスの食器→→→落ちて割れてしまうかもしれない

食料の備蓄がない→→→公的な備蓄しか食べられない。1日2食3日分、5万人分しか

公的な備蓄がないため、1食必ず食べられる保証がない。

在宅避難の場合、食べるものがない。

非常持出品がない→→→公的備蓄も日用品はほとんどないため、外部からの支援が入る

まで生活が成り立たない。

非常食があっても、お皿がない。どうやって食べるか考えたことはありますか？

2 【本編】紙食器・スリッパ・ポンチョを作ってみる（30分）

紙食器の作り方、スリッパの作り方、ポンチョの作り方の資料を見て、実際につくってみる。

3 【結論】今日のまとめ（5分）

自助の大切さについて話す。

自助は、防災の一番大切な取り組み。

自分の命を守るために、非常持出袋・備蓄品を備えること、家族の中で集合場所等を話し合うなどの対策を家族全員で行うことが大事なことを伝える。

非常食を食べてみよう！

分類	レベル	形式	人数	場所	時間
災害全般	1	実技	—	教室／調理室	45分／90分

学習の目標

豊橋市が備蓄している非常食の試食を通じて被災生活を疑似体験し、災害に備えた自助の大切さについて学ぶ。

用意するもの

★防災危機管理課から受け取るもの★

- ① 豊橋市が備蓄する非常食……必要数

※有効期限が切れる前の非常食を配布するため、年度・時期によって用意できるものが異なります。

事前にお問い合わせください。

- ① 一例



★キャビネット内データ★

- ② 豊橋市の備蓄品スライド

★個人で用意するもの★

<発展編をする場合>

- ③ エプロン
④ バンダナ

- ②

公的備蓄の保管場所	
○指定避難所	
第1指定避難所	71箇所
第2指定避難所	95箇所
福祉避難所	10箇所
○その他	
津波防災センター	2箇所
帰宅困難者等支援施設	1箇所（こども未来館）

- ⑧



★学校で用意するもの★

- ⑤ 手洗い消毒液
⑥ パソコン
⑦ プロジェクター
⑧ 豊橋市防災ガイドブック（教員用）……1部
⑨ 非常食を食べるのに必要な食器・スプーン・お湯など

<発展編をする場合>

- ⑩ 必要な食材

事前の準備・実施上の注意点

- 防災危機管理課に問合せ、受け取り可能な非常食を確認する。
※年度や時期によっては、非常食をお渡しできないこともあります。
- 防災危機管理課から非常食を受け取る。
- 食物アレルギー等に注意する。
- 非常食を食べるのに必要な食器・スプーン・お湯などを用意する。
- 配布したDVDに入っているスライドを映し出せるパソコン・プロジェクターを用意する。

<発展編をする場合>

- 非常食のリメイクレシピから作るものを決め、必要な食材を用意する。
- 児童にエプロン、バンダナをもって来るよう伝える。

指導のポイント

自助の備えの大切さを理解してもらうため、公的備蓄のみでは、①量が少ない②栄養バランスが偏ってしまう③子どもが食べられるものか分からない、ということを強調する。

ひと工夫

新聞を使った紙食器づくり（メニュー12）と併せて実施するとより被災時に近くなって、イメージがわきやすい。

実施手順・内容

1 【導入】豊橋市の公的備蓄について知る・災害時の自助について知る（10分）

「豊橋市の備蓄品スライド」で、豊橋市の公的備蓄を学ぶ。

その後、自宅での備えについてクラス全体で話しあう。

公助の非常食は、量・種類とも少ないため、自助の備えが大切になるということを強調する。家族の好みやアレルギーなどを考え、それぞれの家族に合ったものを備えることが大切。非常食として売られているもの以外にレトルト食品や普段食べるものを多く買って置き、食べたらいり足りるローリングストックなどの方法で備えることも有効！

ポイント 1日2食3日分×5万人分の計30万食のみ
乾パンやクラッカーも1食に計算されている

2 【発展編】非常食のリメイクをする（45分）

リメイクレシピに従い、非常食をおいしく食べる調理を行う。

※45分で行う場合は、この工程を飛ばす！

3 【本編】非常食（のリメイク品）を食べ（比べ）てみる（25分）

豊橋市に備蓄されている非常食又はリメイクした非常食を食べ（比べ）てみる。

そのままの非常食とリメイクした非常食を食べ比べてみると、自助の備えで様々な工夫ができるようにしておく大切さがより分かりやすくなる。

4 【本編】非常食の感想を共有する（5分）

非常食を食べた感想をクラス全体で共有する。

時間があれば、児童が何を備えたいか話し合いをする。

発災直後は、今回のご飯が1日2回で3～7日続くことを強調し、公的備蓄の非常食だけでは、「温かくない」「味気ない」「食べあきる」ということを理解してもらう。子供たちに自分たちで好きなものを備える大切さを感じてもらう。

5 【結論】今日のまとめ（5分）

自助の大切さについて話す。

自助は、防災の一番大切な取り組み。

自分の命を守るために、非常持出袋・備蓄品を備えること、家族の中で集合場所等を話し合うなどの対策を家族全員で行うことが大事なことを伝える。

やってみよう！ パッキング

分類	レベル	形式	人数	場所	時間
災害全般	1	実技	—	調理室	90分

学習の目標

パッキングを通じて被災生活を疑似体験し、災害に備えた自助の大切さについて学ぶ。

用意するもの

★防災危機管理課から受け取るもの★

- ① パッキングの袋……必要数 ※各家庭にある「高密度ポリエチレン」でも可。
- ② 食べ比べる非常食（乾パンなど）…必要数
※有効期限が切れる前の非常食を配布するため、年度・時期によって用意できるものが異なります。

★キャビネット内データ★

- ③ 豊橋市の備蓄品スライド
- ④ パッキングの参考レシピ

①



★個人で用意するもの★

- ⑤ エプロン
- ⑥ バンダナ
- ⑦ 高密度ポリエチレン（清潔なビニール袋）※①を使用しない場合

★学校で用意するもの★

- ⑧ 手洗い消毒液
- ⑨ 調理器具・お皿など
- ⑩ 必要な食材
- ⑪ 豊橋市防災ガイドブック（教員用）……1部
- ⑫ パッキングのレシピ

③

公的備蓄の保管場所	
○指定避難所	
第1指定避難所	71箇所
第2指定避難所	95箇所
指定避難所	10箇所
○その他	
津波防災センター	2箇所
帰宅困難者等支援施設	1箇所（こども未来館）

⑪



事前の準備・実施上の注意点

- 防災危機管理課からパッキング用の袋を受け取る。
- パッキングレシピを参考に作るものを決め、必要な食材を用意する。
基本的には家庭科の調理の授業で、調理器具を使わずパッキングを行うことを想定している。
- 調理後の料理を食べるのに必要な食器・スプーンなどを用意する。
- 児童にエプロン、バンダナをもって来るよう伝える。

指導のポイント

自助の備えの大切さを理解してもらうため、温かい食事と非常食の違いを認識してもらう。パッキングのメリットは、水を使いませる、野菜が取れる、温かい食事が食べられるなどが挙げられる。

ひと工夫

新聞を使った紙食器づくり（メニュー18）と併せて実施するとより被災時に近くなって、イメージがわかりやすい。

実施手順・内容

1 【導入】災害時の公助・自助について知る（10分）

「豊橋市の備蓄品スライド」で、豊橋市の公的備蓄を学ぶ。

その後、自宅での備えについてクラス全体で話しあう。

公的備蓄の非常食は、量・種類とも少ないため、自助の備えが大切になるということを強調する。

ポイント 1日2食3日分×5万人分の計30万食のみ

乾パンやクラッカーも1食に計算されている

家族の好みやアレルギーなどを考え、それぞれの家族に合ったものを備えることが大切
非常食として売られているもの以外にレトルト食品や普段食べるものを多く買っておく
ローリングストックなどの方法で備えることも有効！

★パッキングは、少ない水を使いまわして調理できる、温かいものを食べられる、野菜が食べられるなどたくさんのメリットがある。

2 【本編】パッキングをする（55分）

パッキングを行う。

元々調理実習で調理する予定のメニューをパッキングですべて調理できるとよい。

【パッキングとは】

災害時に、ビニール袋を使用して調理を行うこと。

調理器具が汚れず、調理に使った水が使いまわせるため、水の節約になる。

また、一度に複数の料理を調理できるため、ガス等の節約になるほか、非常食と比較し栄養バランスの取れた温かい食事を食べることができる。

3 【本編】パッキングした料理を食べてみる（20分）

パッキングで調理した料理を食べてみる。また、自分たちで作った料理と非常食を食べ比べてみる。

温かい料理と非常食それぞれが同じ1食になることを強調し、自助の大切さを認識させる。

4 【結論】今日のまとめ（5分）

自助の大切さについて話す。

発災時は、自分で用意していないと温かい食事は外部からの支援が入るまで食べることはできない。自分に合ったものを食べられるよう、自分で備えておくことの大切さを伝える。

揺れにのこった！のこった！ ～家の耐震化を学ぶ～

分類	レベル	形式	人数	場所	時間
地震	2	演習	6～8人	教室	45分

学習の目標

実際に目の前で揺れの違いを見ることで耐震化の大切さを学ぶ。

用意するもの

★個人で用意するもの★

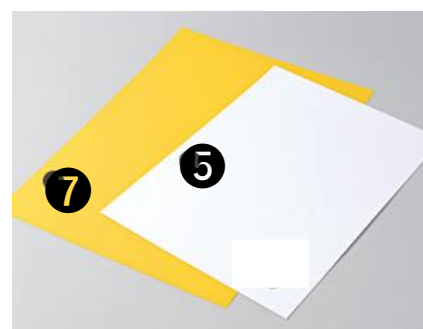
- ① 定規
- ② カッター
- ③ のり
- ④ 筆記用具

★キャビネット内データ★

- ⑤ 揺れにのこった！のこった！つくり方シート…グループ数分
- ⑥ 振り返りシート…児童・生徒の人数分
- ⑦ 紙相撲シート…グループ数分
- ⑧ 被災地の写真…必要数

★学校で用意するもの★

- ⑨ 画用紙程度の厚紙（家の揺れを再現する家用）…グループ数分
- ⑩ ダンボールなどの丈夫な厚紙…グループ数分
- ⑪ ゼムクリップ…グループ数分
- ⑫ 豊橋市防災ガイドブック（教員用）…… 1部



事前の準備・実施上の注意点

- 画用紙程度の厚紙、ダンボールなどの丈夫な厚紙、ゼムクリップをグループの数分用意する。
- グループで1つずつ長い定規、カッター、のりを用意する。
- 「豊橋市防災ガイドブック」に掲載されている、「地震災害から身を守る」（p3-13）を読んでおく。
- 配布済みDVDにある過去の被災地の写真を印刷しておく。
※特に、家がつぶれてしまっている写真を用意する。
- 6～8人のグループ分けをする。

指導のポイント

紙で作った「揺れにのこった！のこった！」装置が、実際の家であり、紙相撲が実際の人であると想像してもらい、実際に紙相撲が落ちると、被災地の写真のように家がつぶれて人がなくなってしまうということを説明する。

ひと工夫

宿題で、家の耐震構造等について調べてくる（実験のどの分類に該当するのか）と家族との共有ができ、より効果的な実験となる。

実施手順・内容

1 【導入】地震の危険について知る（5分）

振り返りシートを使用し、被災地の写真を見せる前に地震が起こるとどんな危険が起こりうるのかグループごと話し合う。グループごと話し合った内容を全体で共有する。その後、地震による被災地の写真を見せ、今回のテーマ「自宅の倒壊」の怖さを認識してもらう。

写真を見せただけでは家がくしゃくしゃに崩れている様子が分からないかもしれないため、写真がどのような状況を表しているのかできる限り説明する。

2 【本編】揺れにのこった！のこった！セットを作る。（25分）

「揺れにのこった！のこった！つくり方」シートをもとに、グループごと、「揺れにのこった！のこった！」を作成する。また、この上に乗せる紙相撲力士を切り取る。

揺れにのこった！のこった！は、家の耐震化によってどんな違いがあるかを簡易的に確認するものであるため、筋交い、振り子などはきちんと固定すること。

3 【本編】実験・意見交換（10分）

揺らす前にこれらの紙が実際の家であるとイメージしながら揺らし、観察するよう説明する。紙相撲力士を「揺れにのこった！のこった！」の上に乗せ、下の厚紙を揺らす。

しばらく揺らし、終わったら振り返りシートに気づいたことなどを記入するとともに、グループごどのような結果になったのか話し合う。

<完成イメージ>



固定なし→振り子→筋交いの順に強度が増していく。

4 【結論】発表・まとめ（5分）

各グループごと意見を発表する。

まとめとして、家の耐震化を事前にしておくことで家が倒れにくくなり授業冒頭で見た家屋の倒壊を防ぐことができることを伝える。

日本は古来から、制震構造を備えた建築物が数多くあり、世界最古の木造建築物である法隆寺（奈良県）の五重塔は、今回実験した振り子と同じ原理となっている。
また東京スカイツリーも同じ構造が用いられている。

災害時のトイレ体験

分類	レベル	形式	人数	場所	時間
災害全般	1	実技	6～8人	教室／屋外	45分／90分

学習の目標

過去の災害のトイレ問題を学び、トイレに関する事前の備えを知る。

用意するもの

★キャビネット内データ★

- ① 振り返りシート…児童・生徒の人数分
- ② 災害時のトイレ問題（教員用）…1部

★個人で用意するもの★

- ③ 筆記用具

★学校で用意するもの★

- ④ 簡易トイレ（資機材保管庫にある）…1～2つ
 - ⑤ トイレ用ワンタッチテント（資機材保管庫にある）…1～2つ
- ※⑥⑦は学校の資機材保管庫から取り出せない場合、
防災危機管理課から貸し出すことも可能
- ⑥ マンホールトイレ用資機材
 - ⑦ 豊橋市防災ガイドブック（教員用）……1部



事前の準備・実施上の注意点

- 簡易トイレ・マンホールトイレどちらを体験するか決める。
- マンホールトイレの場合、資機材保管庫の中にマンホールトイレ用資機材が入っているため、カギを借りて（校区市民館・自治会長・学校のいずれかが保管）取り出す。
- 学校の避難所用資機材保管庫から必要数の簡易トイレ、ワンタッチテントを用意する。
見つからない場合、取り出せない場合は、防災危機管理課へ連絡する。
- 災害時のトイレ問題（教員用）を印刷する。
- 振り返りシートを人数分印刷する。
- 「豊橋市防災ガイドブック」に掲載されている、「地震災害から身を守る」（p3-13）を読んでおく。
- 5～6人のグループ分けをする。

マンホールトイレ設置場所

高師緑地／牛川遊歩公園／豊橋公園／東田公園／向山緑地／岩田運動公園／幸公園／くすのき特別支援学校
 防災ひろば／高根小学校／天伯小学校／富士見小学校／汐田小学校／福岡小学校／岩田小学校／下地小学校
 道の駅「とよはし」／幸小学校／高師小学校／岩西小学校／老津家政専修学校／羽根井小学校／北部中学校
 ここにこ／東陵中学校／豊小学校／花田小学校／磯辺小学校／豊岡中学校／つつじが丘小学校

指導のポイント

災害時の汚いトイレに行くことを嫌厭することで、災害関連死に繋がる等、トイレ問題は命に直結する大切なものであることをしっかり伝え、非常食ともに、簡易トイレやビニール袋を備蓄しておく必要性を認識させる。

ひと工夫

事前の備えの中で、自分の家にあるものでトイレの代用として使えるようなものを話し合う方法もある。

実施手順・内容

1 【導入】災害時のトイレ問題を考えてみる（15分）

災害時のトイレ問題（教員用）をもとに、災害時にはトイレに係わる電気・上下水道が途絶することを説明し、どのような問題が考えられるかグループごとに話し合う。

グループごとに話し合った内容をクラス全体で共有する。

可能であれば、説明用資料に載せた災害時の避難所のトイレ写真などを見せると実情が理解しやすい。

2 【本編】簡易トイレを組み立ててみる（15分/60分）

簡易トイレとテントを組み立てて、テント・トイレをセッティングし、体験してみる。

※マンホールトイレの使い方は、次ページのとおり

災害時のトイレは、簡易的で、テントも薄い布のみ。トイレを使用しやすくするため、どのような対策やアイデアが考えられるか児童・生徒に話し合ってもらおう。

例) 男女のトイレの場所を離す など

3 【結論】今日のまとめ・事前の備え（15分）

振り返りシートをもとに、災害時のトイレ問題への対策として、自分や家族で備えるべきものをグループごと考え、クラス全体で共有する。

最後にまとめとして、トイレ問題に関しても事前の備えの大切さを改めて伝える。

在宅避難をしたいと思っても、トイレが使えないと在宅生活を送れないため、トイレの対策をしっかりやっておくことが大切。トイレを我慢すると、災害関連死に繋がることも併せて伝える。

マンホールトイレ設置方法

■ 使用するマンホールトイレの備品



ワンタッチテント及び用具一式



マンホールトイレ用便器（手すり付き）

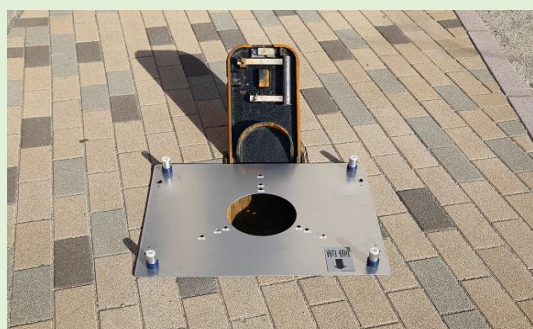
■ マンホールトイレ用便器の設置



マンホールの蓋を開ける。



開け方は、避難所ごとに異なる。



ベースプレートを設置する。



※プレートの穴とマンホールが重なるように



プレートの上に椅子を設置します。



便器を設置する。カバーは確実に穴の中へ入れる。

マンホールトイレ設置方法

■ テントの設置



ワンタッチトイレを収納袋から取り出すと、自動的に展開される。



展開したテントを便器の上に被せる。紐・重しで風で飛ばされない対策をする。

■ マンホールトイレの特徴

豊橋市内の避難所のうち、特にトイレ不足が懸念される避難所にマンホールトイレを整備しています。避難所に整備しているマンホールトイレは、下水道管に直結しているほか、**下水道管が破損した場合でもトイレが使用できる**ように貯留槽を設けています。



資料提供：株式会社クボタケミックス
※平成30年以降に設置したもの

比べてみよう！

普段の暮らし、災害の暮らし

分類	レベル	形式	人数	場所	時間
地震	1	実技	6～8人	教室	45分

学習の目標

普段の暮らしと災害時の暮らしを比較し、事前にできる対策を考えることで、事前の備えの大切さを学ぶ。

用意するもの

★キャビネット内データ★

- ① 「地震が起きたら私たちの生活はどうなるの？」シート…児童・生徒の人数分
- ② 「地震が起きたら私たちの生活はどうなるの？」（教員用）…1部
- ③ 豊橋市のライフライン被害想定…必要であれば
- ④ 被災地の写真…必要であれば

★個人で用意するもの★

- ⑤ 筆記用具

★学校で用意するもの★

- ⑥ 豊橋市防災ガイドブック（教員用）……1部



事前の準備・実施上の注意点

- 「地震が起きたら私たちの生活はどうなるの？」シートを児童・生徒の人数分印刷する。
- 「地震が起きたら私たちの生活はどうなるの？」（教員用）を印刷する。
- 被災地の写真、豊橋市のライフライン被害想定を必要に応じて印刷する。
- 「豊橋市防災ガイドブック」に掲載されている、「地震災害から身を守る」（p3-13）を読んでおく。
- 6～8人のグループ分けをする。

指導のポイント

日常生活で普通に行っていることでも、災害時にはできなくなる生活上の不便を通して、事前の備えの必要性について認識できるようにする。

ひと工夫

各自でシートに記入して、グループで話し合った後、被災地の写真などを見せると災害時の町のイメージが付きやすい。

1 【導入】シートの説明する（5分）

普段、日常生活で何気なく使用している、電気、ガス、水道、携帯電話などは、大きな地震が起こったときには使用できなくなってしまうことを説明し、自分たちが過ごしている普段の生活は地震が起こった時にどうなるか考えてもらう。

まずは、細かな震災の状況などは話さず、自分の生活がどう変わるのか児童・生徒に自由に考えさせる。平日・休日どちらでもいいが、どちらかに統一して、グループでの意見交換ができるようにする。

2 【本編】日常生活をシートに記入する（10分）

シートを配布し、「できごと」欄に普段の1日の行動をタイムスケジュールにして書いてもらう。また、「いるもの、つかうもの」欄にその生活や行動（食事、通学、放課後、就寝など）のために必要なものを記入してもらう。

3 【本編】災害時の生活を考えてみる（10分）

各自が記入した生活や行動ができるか、「地震があったときはどうなるの？」欄に、どんなことが不便になってしまうのか記入する。（例：水が出ない、電気が止まるなど）また、地震のときも普段と同じ生活をするためには、何を用意しておけばいいか考える。

4 【本編】グループで話し合い・発表する（15分）

グループごと、各自が記入した日常生活・災害時の生活・その対策について話し合い、発表する。

例：水、食べ物が無い→非常食・飲料水の備蓄
電気がとまる→モバイルバッテリー、懐中電灯を用意
ガスが止まる→カセットガスコンロを用意
家族と連絡が取れない→事前に集合場所、連絡方法を話し合っておく
情報が手に入らない→ラジオを用意、ほっとメールに登録

5 【結論】今日のまとめ（5分）

日常生活・災害時の生活を比較することで分かった、事前の備えの重要性を伝える。

事前の備えとして一般的な食べ物などの備蓄以外にも家族がどこに逃げるのか、どうやって集まるかなどを話し合っておくことが大切だということを強調する。

自分を守る方法を学ぼう！

～地震編～

分類	レベル	形式	人数	場所	時間
地震	2	演習	6～8人	教室	45分

学習の目標

家の中で、外で、出かけた先で地震が起こった場合に、どのように自分の身を守るか学ぶ。

用意するもの

★キャビネット内データ★

- ① 場面シート（家・外）…グループ数分
- ② 家にいて地震にあったときの行動（指導者用）…1部
- ③ 外にいて地震にあったときの行動（指導者用）…1部
- ④ 家の中・外の地震の動画
※一部動画はDVD内にあるリンクをインターネットで閲覧
- ⑤ 振り返りシート…児童・生徒の人数分

①



②



★個人で用意するもの★

- ⑥ 筆記用具

⑦



★学校で用意するもの★

- ⑦ 豊橋市防災ガイドブック（教員用）……1部
- ⑧ パソコン
- ⑨ プロジェクター

事前の準備・実施上の注意点

- 家の中、外、海岸の近くの場面シートをグループに1部ずつ印刷する。
- 振り返りシートを必要数印刷する。
- パソコンをインターネットに接続し、動画を閲覧できるようにする。
- 「豊橋市防災ガイドブック」に掲載されている、「地震災害から身を守る」（p3-13）を読んでおく。
- 6～8人のグループ分けをする。

指導のポイント

普段何気なく過ごしている場所も危険が多いということを伝える。

ひと工夫

街歩きなどと併せて行くとより効果的になる。

また、グループワークは、付箋に書いて模造紙に貼る方法で行ってもよい。

1 【導入】地震の危険について説明する（5分）

地震の時に危険なものとして、家屋の倒壊など様々あるが、それらから身を守るため、「家の中・外」それぞれの場所でどのようなことに気を付ければいいのか、どんな行動をとればいいのかについて説明する。

学校での避難訓練では机の下にもぐるが、地震はいつどこで起こるか分からないため、それぞれの場所でどのように自分の身を守るのか、あらかじめ考えておく必要がある。

2 【本編①】家の中で地震が起こった場合（15分）

家の中の場面シートをグループごと、振り返りシートを1人ずつ配布し、「家の中の揺れの様子」「阪神淡路大震災の時の家の中の様子」映像を流す。映像を踏まえ、グループごと、場面ごとに考えられる危険とその対策を話し合う。

家の中の危険は、「揺れて倒れる・飛ぶ・割れる・落ちる」が考えられる。倒れるものは固定されていない大きな家具、飛ぶものはテレビやランプなど、割れるものはガラスや食器、落ちるものはライトなどが考えられる。

3 【本編②】家の外で地震が起こった場合（15分）

家の外の場面シートをグループごと配布し、「家の外の揺れの様子」「新潟県中越沖地震」映像を流す。映像を踏まえ、グループごと、場面ごとに考えられる危険とその対策を話し合う。

家の外の危険は、家の中と同じ「揺れて倒れる・飛ぶ・割れる・落ちる」、加えて地割れ・液状化なども考えられる。倒れるものは自動販売機など、飛ぶものは鉢植えなど、割れるものはガラスなど、落ちるものは看板などが考えられる。

4 【結論】発表・今日のまとめ（10分）

本編①②で話し合った危険とその対策をグループごと発表し、クラス全体で共有する。地震はいつどこで起こるか分からないため、色々な場面でどのように対策を取るか考えておくことが大切だということを再確認する。

自分の身は自分で守るため、地震が起きた時はどこが一番安全なのか、日ごろからイメージを作っておく。

自分を守る方法を学ぼう！

～津波編～

分類	レベル	形式	人数	場所	時間
地震	2	演習	6～8人	教室	45分

学習の目標

海岸近くで地震が起こった時に、どのように自分の身を守るか学ぶ。

用意するもの

★キャビネット内データ★

- ① 場面シート（海岸）…グループ数分
- ② 海岸の近くにおいて地震にあったときの行動（指導者用）…1部
- ③ 豊橋市の津波による浸水想定（豊橋市防災ガイドブック）…グループ数分
- ④ 津波関連動画
※DVD内にあるリンクをインターネットで閲覧
- ⑤ 振り返りシート…児童・生徒の人数分

★個人で用意するもの★

- ⑥ 筆記用具

★学校で用意するもの★

- ⑦ 豊橋市防災ガイドブック（教員用）……1部
- ⑧ パソコン
- ⑨ プロジェクター
- ⑩ 豊橋市防災ガイドブックの津波避難ビル・津波防災センターのページ…児童・生徒の人数分



事前の準備・実施上の注意点

- 海岸の近くの場面シートをグループに1部ずつ印刷する。
- 振り返りシート・豊橋市防災ガイドブックの津波避難ビルのページを必要数印刷する。
- パソコンをインターネットに接続し、動画を閲覧できるようにする。
- 「豊橋市防災ガイドブック」に掲載されている、「地震災害から身を守る」（p3-13）を読んでおく。
- 6～8人のグループ分けをする。

指導のポイント

旅行先、遊びに行った先などでも危険と隣り合わせだということを伝える。津波避難の基本「①遠くに逃げる、②高い場所に逃げる」についても伝える。

ひと工夫

街歩きなどと併せて行くとより効果的になる。

また、グループワークは、付箋に書いて模造紙に貼る方法で行ってもよい。

1 【導入】地震の危険について説明する（5分）

地震の時に危険なものは、①家・家屋の倒壊②津波など様々あるが、その中で津波から身を守るため、「海岸の近く」でどのようなことに気を付ければいいのか、どんな行動をとればいいのかについて学ぶ。

津波の浸水エリアに住んでいなくても、夏に海水浴など行ったときに地震が起こることもあるため、その可能性に触れ、説明する。

2 【本編】海岸近くで地震が起こった場合（25分）

場面写真（津波）をグループごと、振り返りシートを1人ずつ配布し、「津波関連」映像を流す。豊橋市の津波浸水被害想定を説明する。映像を踏まえ、グループごと、場面ごとに考えられる危険とその対策を話し合う。

豊橋市の外海側は20m以上の津波が来ることが想定されているが、岸壁があり釣りやサーフィンで浜辺にいないければ被害には合わないと考えられている。内海側は場所によって2～3mの津波が70分程度で来ると言われているため、内海側の浸水地域は注意が必要。

3 【結論】発表・今日のまとめ（15分）

本編でグループごと話し合った危険とその対策をグループごと発表し、クラス全体で共有する。地震はいつどこで起こるかわからないため、色々な場面でどのように対策を取るか事前に考えておくことが大切だということを再確認する。

また、海岸近くの街中で地震があった時のために、津波避難ビルや津波防災センターの位置をクラス全体で確認しておく。

自分の身は自分で守るため、地震が起きた時はどこが一番安全なのか、日ごろからイメージを作っておく。

津波は、時間があればできるだけ遠く、時間がなければ高く逃げるのが大事だということも伝える。また、津波避難の三原則として、「想定にとらわれるな（ハザードマップなどの事前の被害想定を超えることもある）」「最善を尽くせ（ここまで逃げれば安全という場所はない、さらに安全な場所へ）」「率先避難者たれ（周りが逃げていなくても自分が周りに声をかけるつもりで）」についても触れる。

自分を守る方法を学ぼう！

～風水害編～

分類	レベル	形式	人数	場所	時間
風水害	2	演習	6～8人	教室	45分

学習の目標

大雨が降った時、竜巻が発生した時などに、どのように自分の身を守るか学ぶ。

用意するもの

★キャビネット内データ★

- ① 場面シート（大雨・竜巻）…グループ数分
- ② 大雨・竜巻にあったときの行動（指導者用）…各1部
- ③ 大雨・竜巻関連動画
※一部動画はDVD内にあるリンクをインターネットで閲覧
- ④ 振り返りシート…児童・生徒の人数分



★個人で用意するもの★

- ⑤ 筆記用具

★学校で用意するもの★

- ⑥ 豊橋市防災ガイドブック（教員用）……1部
- ⑦ パソコン
- ⑧ プロジェクター



事前の準備・実施上の注意点

- 大雨・竜巻場面シートをグループに1部ずつ印刷する。
- パソコンをインターネットに接続し、動画を閲覧できるようにする。
- 動画を配布済みDVDから出しておく。
- 「豊橋市防災ガイドブック」に掲載されている、「風水害から身を守る」（p15-18）を読んでおく。
- 6～8人のグループ分けをする。

指導のポイント

普段何気なく過ごしていても色々な危険と隣り合わせだということを伝える。風水害は急激に変化するため、早めの避難が大切となる。また、早めの避難を行うための情報収集手段を複数確保することの重要性も伝える。

ひと工夫

グループワークは、付箋に書いて模造紙に貼る方法で行ってもよい。必要に応じて、学校にあるラジオを実際に見せたり、無線を見に行ったりすると良い。

実施手順・内容

1 【導入】大雨・竜巻の危険について説明する（5分）

特に夏には、いつどこでゲリラ豪雨のような大雨にあうかわからない。近年全国各地で大雨による川の氾濫で多数の死者が発生していることを伝え、危機感を持たせる。また、豊橋は度々大きな竜巻が通り、被害が出ていることも併せて説明する。

豊橋にも実際に起こりうる災害だということを説明する。風水害の人的被害を防ぐため、自分たちに何ができるのかを考えさせる。

2 【本編①】大雨が起こった場合（15分）

場面写真（大雨）をグループごと、振り返りシートを1人ずつ配布し、「大雨関連」映像を流す。豊橋市の河川浸水被害想定を説明する。映像を踏まえ、グループごと、場面ごとに考えられる危険とその対策を話し合う。

豊橋市は、豊川・豊川放水路・柳生川・梅田川・佐奈川などが流れており、浸水被害が発生する可能性がある地域もある。

3 【本編②】竜巻が起こった場合（15分）

場面写真（竜巻）をグループごと、振り返りシートを1人ずつ配布し、「竜巻関連」映像を流す。過去に豊橋市に発生した竜巻被害について説明する。映像を踏まえ、グループごと、場面ごとに考えられる危険とその対策を話し合う。

豊橋市は、竜巻の通り道となっており、過去に何度も竜巻が発生している。実際に、人・家屋・畑・ビニールハウスなどにも被害が出ている。

【結論】発表・今日のまとめ（10分）

本編でグループごと話し合った危険とその対策をグループごと発表し、クラス全体で共有する。特に夏にはゲリラ豪雨などの大雨がいつどこで起こるかわからないため、色々な場面でどのように対策を取るかを考えておくことが大切だということを再確認する。

また、大雨が短時間に降ると急激に水位が上がって避難できなくなるため、早めの避難が大切となる。

家族などで、避難場所、避難経路、避難のタイミングなどを話しておくことが大切であることも併せて伝える。また、避難に繋がるよう情報収集を行うことが大切となる。市内の情報収集手段についても説明する。（ラジオ・無線・ほっとメール・Hazardon）防災ガイドブックP29-30

自分を守る方法を学ぼう！

～土砂災害編～

分類	レベル	形式	人数	場所	時間
土砂災害	2	演習	6～8人	教室	45分

学習の目標

大雨が降り土砂災害の危険が高まった時に、どのように自分の身を守るか学ぶ。

用意するもの

★キャビネット内データ★

- ① 場面シート（土砂災害）…グループ数分
- ② 土砂災害にあったときの行動（指導者用）…各1部
- ③ 振り返りシート…児童・生徒の人数分

①



⑥



★個人で用意するもの★

- ④ 筆記用具

★学校で用意するもの★

- ⑤ 豊橋市防災ガイドブック（教員用）……1部
- ⑥ パソコン
- ⑦ プロジェクター

事前の準備・実施上の注意点

- 土砂災害場面シートをグループに1部ずつ印刷する。
- 振り返りシートを必要数印刷する。
- 「豊橋市防災ガイドブック」に掲載されている、「土砂災害から身を守る」（P20-22）を読んでおく。
- 6～8人のグループ分けをする。

指導のポイント

普段何気なく過ごしていても色々な危険と隣り合わせだということを意識させる。土砂災害は、徴候が見られた時にはすでに避難できない状態であるため、その場合は垂直避難する、山側と反対側に避難するなどの対策があることも併せて伝える。また、早めの避難を行うための情報収集手段を複数確保することの重要性も伝える。

ひと工夫

グループワークは、付箋に書いて模造紙に貼る方法で行ってもよい。

1 【導入】土砂災害の危険について説明する（5分）

近年全国各地で大雨による土砂災害で多数の死者が発生していることを伝え、危機感を持たせる。豊橋でも山間部を中心に土砂災害警戒区域があり、危険性があることも併せて伝える。

豊橋でも実際に災害が起こりうることを説明する。また、人的被害を防ぐため、どのような手段で情報収集するかを考えさせる。

2 【本編】土砂災害が起こりそうな場合（30分）

場面写真（土砂災害）をグループごと、振り返りシートを1人ずつ配布し、「土砂災害関連」映像を流す。豊橋市の土砂災害警戒区域を説明する。映像を踏まえ、グループごと、場面ごとに考えられる危険とその対策を話し合う。

豊橋市でも山間部を中心に土砂災害警戒区域がある。

3 【結論】発表・今日のまとめ（10分）

本編でグループごと話し合った危険とその対策をグループごと発表し、クラス全体で共有する。特に夏にはゲリラ豪雨などの大雨に伴い、土砂災害の発生の危険性が高くなる。色々な場面でどのように対策を取るか考えておくことが大切だということを再確認する。

避難指示などの避難情報を聞いたら家族や身近な人に避難するよう率先して伝える、土砂災害の兆候に気づいた場合は、垂直避難する、山側と反対側に逃げるなどの対策が考えられる。また、事前に避難ができるよう情報収集を行うことの重要性を説明する。

家族などで、避難場所、避難経路、避難のタイミングなどを話しておくことが大切であることも併せて伝える。また、避難に繋がる用情報収集を行うことが大切となる。市内の情報収集手段についても説明する。（ラジオ・無線・ほっとメール・Hazardon）防災ガイドブックP29-30

B OUSAIMAN



防災危機管理課啓発グループ 0532-51-3126

2023.2発行